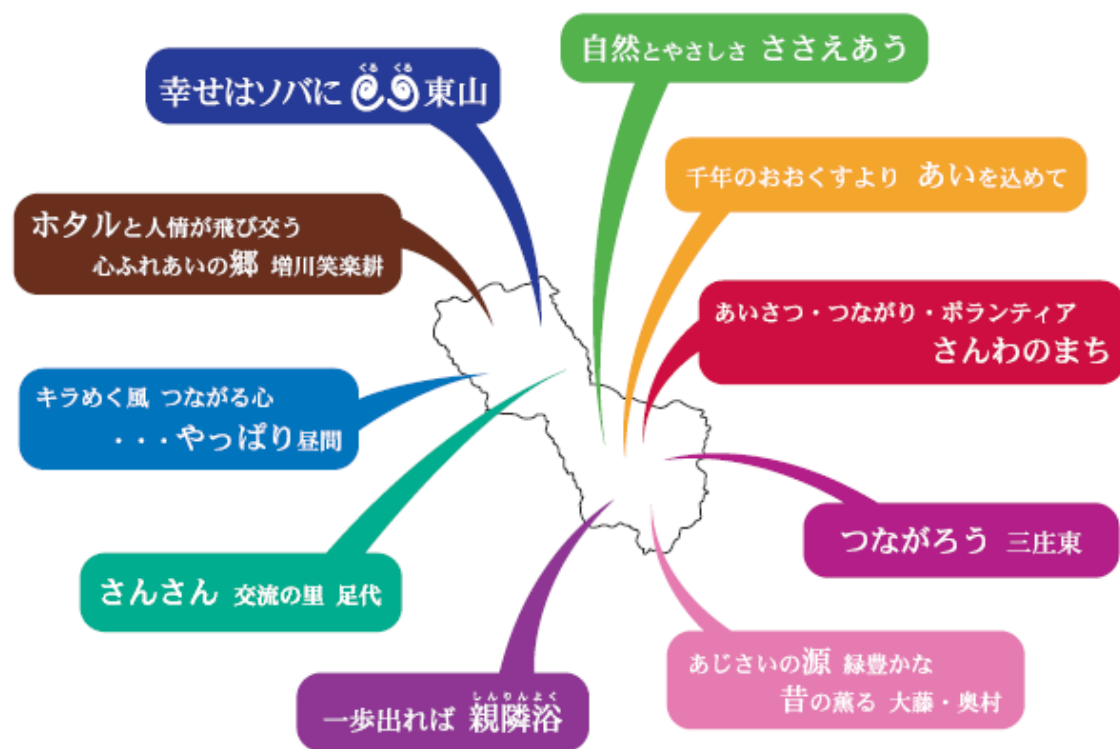


第4期東みよし町地域福祉活動計画

「自然とやさしさ 心ふれあう福祉の郷」を目指して



令和8年4月



社会福祉法人 東みよし町社会福祉協議会
第4期東みよし町地域福祉活動計画策定委員会

はじめに

今回、「第4期東みよし町地域福祉活動計画」を策定するにあたり、私たちはこれまでの歩みを改めて振り返りました。

その中で、「第1期地域福祉活動計画」策定の際に生まれたキャッチフレーズは、当時の思いや願いが込められた、東みよし町の大切な原点ともいえる言葉です。

今回の計画の表紙には、あえてその第1期のキャッチフレーズを掲載しました。

それは、これまで地域を支えてきた多くの方々の思いをもう一度胸に刻み、「原点を忘れずに、次の一步を踏み出したい」という思いからです。

地域福祉活動の推進に向けて、過去の思いと今の思いが重なり合い、これから社会福祉協議会と住民の皆様が力を合わせ、より良い地域づくりへと進んでいく一步となれば幸いです。



目 次

第1章	基本となる考え方と計画の概要	1
	1. 地域福祉と地域福祉活動計画	1
	2. 第4期東みよし町地域福祉活動計画の概要	2
第2章	東みよし町の概要	4
	1. 統計データ等からみる町の現状	4
	2. 町民アンケート調査結果からみる現状と課題	13
第3章	第4期東みよし町地域福祉活動計画	27
	1. 東みよし町地域福祉活動計画	27
	2. 基本目標に対する課題と主な取り組み	28
第4章	地区地域福祉活動計画	31
	大藤・毛田・中庄地区地域福祉活動計画	31
	西庄地区地域福祉活動計画	33
	西庄・絵堂地区地域福祉活動計画	35
	加茂地区地域福祉活動計画	37
	足代地区地域福祉活動計画	39
	昼間・増川地区地域福祉活動計画	41
	東山地区地域福祉活動計画	43
参考資料		45
	第4期東みよし町地域福祉活動計画策定委員名簿	45
	策定委員会開催状況	46

第1章 基本となる考え方と計画の概要

1. 地域福祉と地域福祉活動計画

(1) 地域福祉とは

地域福祉とは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域住民や社会福祉関係者が互いに協力し、地域社会全体で住民の福祉を支える仕組みです。

社会福祉法第4条第1項では、「地域住民」を地域福祉の推進に努める主体と位置づけています。地域に暮らす住民自身が主体となり、協力し合いながら、「暮らしやすい地域づくり」に取り組むことが重要です。

(2) 「自助」「互助」「共助」「公助」のイメージ

地域での支え合いを築いていくための考え方として、「自助」・「互助」・「共助」・「公助」があります。これらが相互に働き合いながら、地域福祉活動を推進する必要があります。

自助（個人）：自分自身や家族による助け合い・支え合い

互助（隣近所）：身近な人間関係の中での自発的な助け合い・支え合い

共助（地域）：制度化された地域ぐるみの助け合い・支え合い

公助（行政）：公的な制度として福祉サービスの提供による支え合い

■自助・互助・共助・公助のイメージ



自分や家族の力で生活する

自助

隣近所や地域で互いに助け合う

互助



共助

制度化された相互扶助

公助

行政が行う福祉サービス



(3) 地域福祉活動計画とは

少子高齢化の進行や人口減少、地域のつながりの希薄化、生活の多様化などにより、ひきこもり、生活困窮、介護や子育ての負担など、公的サービスだけでは十分に対応しきれない課題が増えています。

また、こうした困りごとは、福祉だけでなく、医療・就労・教育・住まいなど生活全般に関わる複合的な問題として表れることが多く、地域・住民・関係団体・事業所・行政が連携し、包括的に支えていく体制づくりが求められています。

これまで国は、団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」を見据え、日常生活圏域で医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築を進めてきました。

現在はこれをさらに発展させ、高齢者に限らず、障がいのある人、子ども・子育て家庭、生活に困難を抱える人など、誰もが地域で支え合いながら暮らし続けられる「地域共生社会」の実現が国の大きな方針となっています。

地域共生社会の実現に向けては、年齢や障がいの有無、世帯の状況にかかわらず、地域の中で必要な支援が包括的に提供される体制づくりが不可欠です。こうした理念を具体的な取り組みとして示すものが「地域福祉計画・地域福祉活動計画」です。

この計画では、地域の誰が、何に、どのように取り組むのかを明確にし、東みよし町における地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の推進を図っていきます。

2. 第4期東みよし町地域福祉活動計画の概要

(1) 計画の期間

第4期地域福祉活動計画は、令和8年度を初年度、令和12年度を目標年度とする5か年計画とし、最終年度に評価・見直しを行います。なお、関連する他の計画との整合性や、社会情勢・制度等の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行っていきます。

■計画の期間

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)
第4期東みよし町地域福祉活動計画					
				● 評価・見直し	
				 次期計画 策定	次期計画

(2) 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係

■ 地域福祉計画（市町村が策定する行政計画）

『地域福祉計画』は、社会福祉法第 107 条に基づき市町村が策定する行政計画です。高齢者、子ども、障がい者・障がい児などを対象とした各分野の福祉計画の上位に位置づけられ、地域福祉の基本理念や将来像、行政として取り組むべき方向性を示すものです。地域における福祉の「大きな方針」を定める計画といえます。

■ 地域福祉活動計画（社会福祉協議会が策定する住民参加型の活動計画）

『地域福祉活動計画』は、民間組織である社会福祉協議会が策定する活動計画です。市町村の『地域福祉計画』が示す理念やビジョンを踏まえながら、地域住民、関係団体、福祉関係機関などと協働し、地域福祉を具体的に推進するための取り組みを示します。

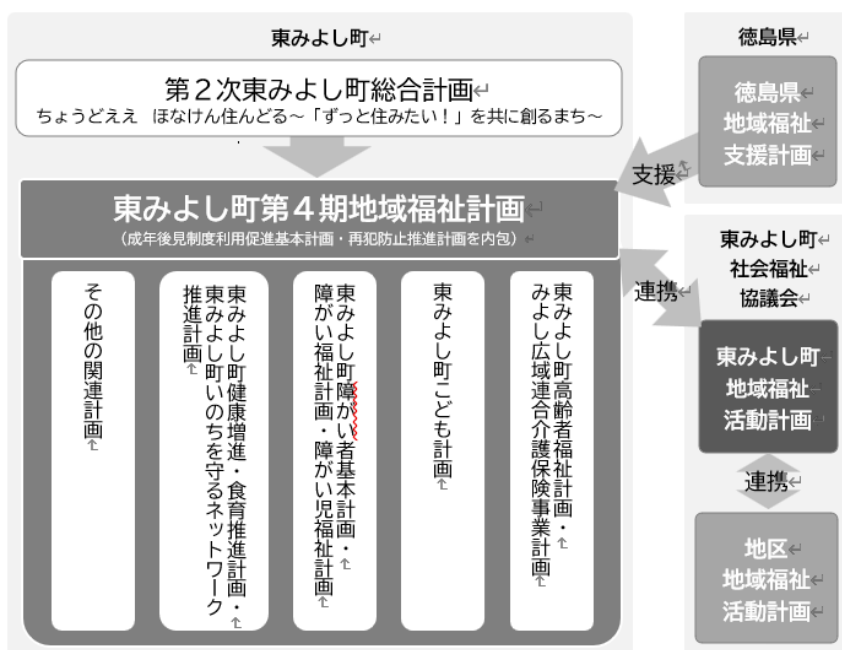
住民主体の助け合い活動、地域のつながりづくり、見守り・支え合いの仕組みづくりなど、地域の実情に応じた「行動の計画」として位置づけられます

(3) 計画の位置づけ

地域福祉計画は、総合計画を最上位計画として位置づけ、その方針に基づき策定します。また、福祉各分野の共通事項を示す上位計画として、関連する個別計画との連携を図ります。

地域福祉活動計画は地域福祉計画の理念やビジョンを踏まえて、地域住民や関係機関との連携により地域福祉を推進するための具体的な取り組みを明記することが求められます。

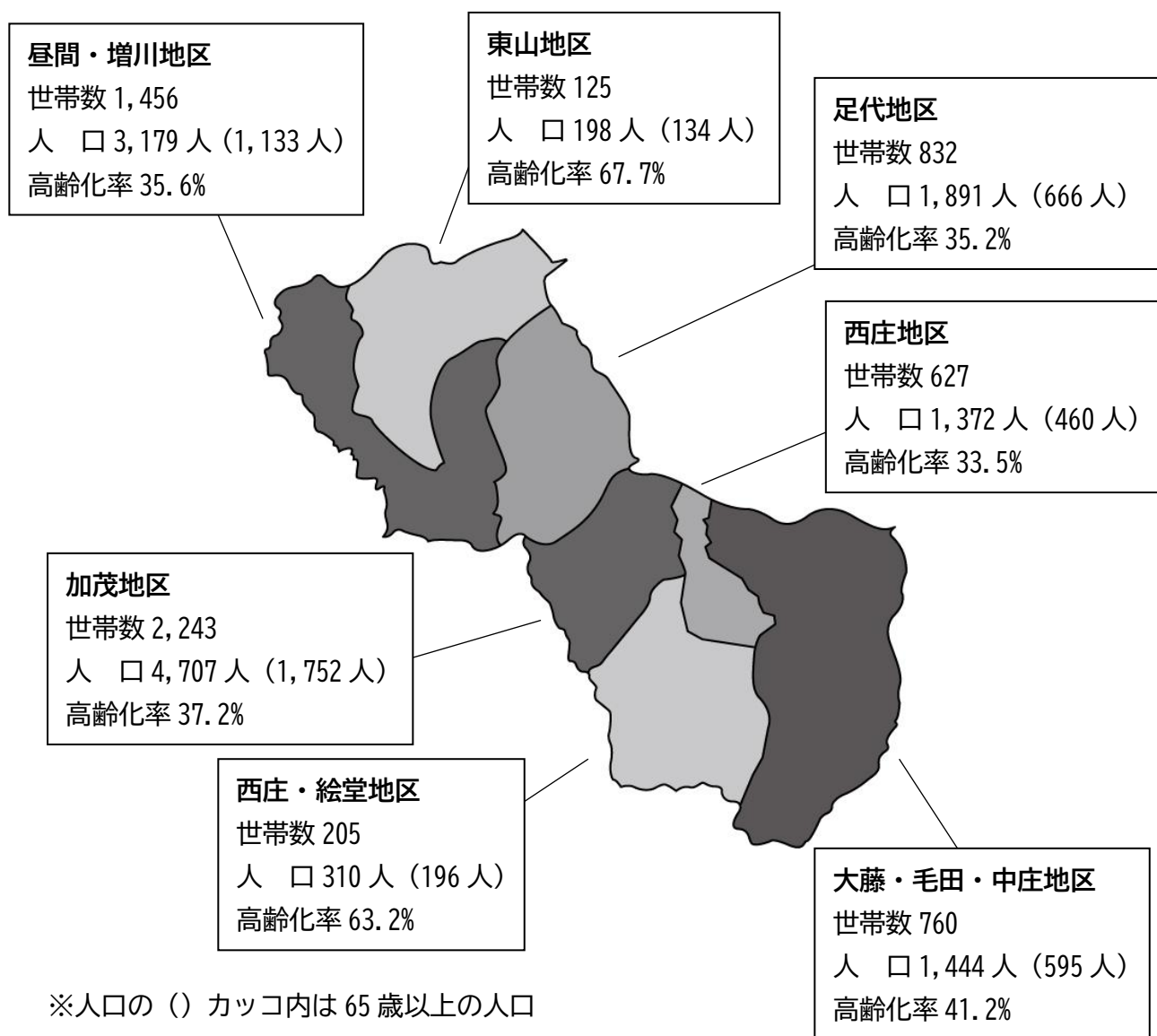
■ 他計画との関係イメージ



第2章 東みよし町の概要

1. 統計データ等からみる町の現状

東みよし町は、北に阿讃山脈、南に四国山地を望み、町の中央を四国三郎・吉野川が東西に貫く自然豊かな町です。平成18年3月1日に旧三好町と旧三加茂町が合併して誕生し、面積は122.48 km²を有しています。四国のほぼ中央に位置し、四国4県への交通の利便性にも恵まれ、町の中央部には吉野川ハイウェイオアシスやスマートインターチェンジを備え、中四国圏域や近畿圏域との交通連携の拠点となっています。



- 総世帯数 6,248 世帯
- 総人口 13,101人 (4,936人)
- 高齢化率 37.7 %

(令和7年4月1日現在)

5年前との比較（地区別）

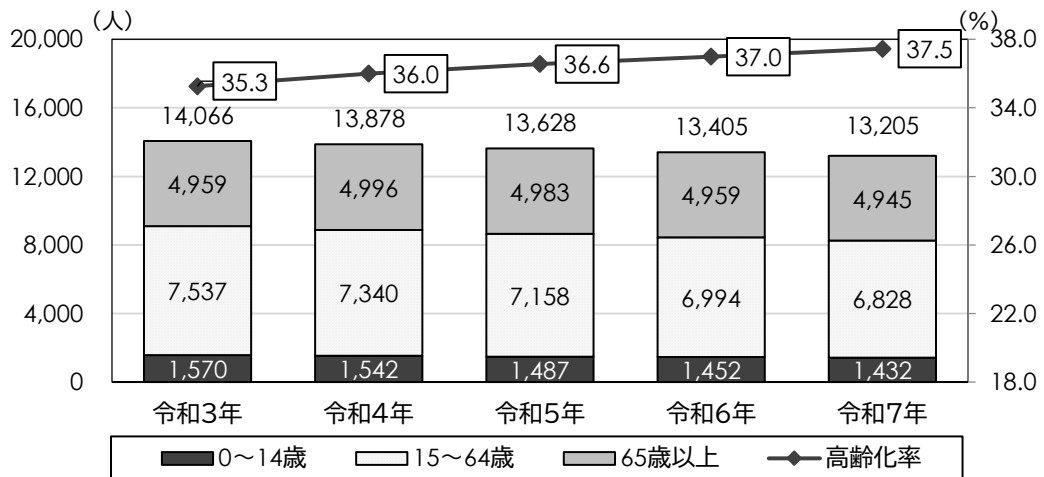
地区名	項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
大藤 ・ 毛田 ・ 中庄	世帯数（世帯）	775	760	-15
	人口（人）	1,596	1,444	-152
	65歳以上の人口（人）	630	595	-35
	高齢化率（%）	39.5	41.2	+1.7
西庄	世帯数（世帯）	642	627	-15
	人口（人）	1,492	1,372	-120
	65歳以上の人口（人）	478	460	-18
	高齢化率（%）	32.0	33.5	+1.5
西庄 ・ 絵堂	世帯数（世帯）	213	205	-8
	人口（人）	344	310	-34
	65歳以上の人口（人）	197	196	-1
	高齢化率（%）	57.3	63.2	+5.9
加茂	世帯数（世帯）	2,253	2,243	-10
	人口（人）	5,120	4,707	-413
	65歳以上の人口（人）	1,680	1,752	+72
	高齢化率（%）	32.8	37.2	+4.4
足代	世帯数（世帯）	821	832	+11
	人口（人）	1,981	1,891	-90
	65歳以上の人口（人）	650	666	+16
	高齢化率（%）	32.8	35.2	+2.4
昼間 ・ 増川	世帯数（世帯）	1,454	1,456	+2
	人口（人）	3,379	3,179	-200
	65歳以上の人口（人）	1,121	1,133	+12
	高齢化率（%）	33.2	35.6	+2.4
東山	世帯数（世帯）	153	125	-28
	人口（人）	267	198	-69
	65歳以上の人口（人）	161	134	-27
	高齢化率（%）	60.3	67.7	+7.4

(1) 人口の推移

本町の人口は減少が続いており、令和3年から令和7年にかけて861人の減少となっています。それに伴い、高齢化率は上昇傾向にあり、令和7年に37.5%となっています。

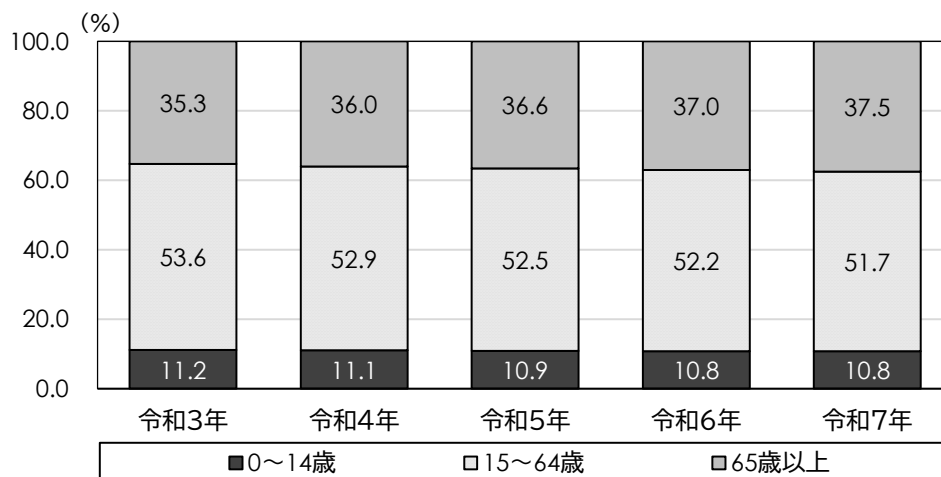
年齢3区分別人口の構成比をみると、0～14歳（年少人口）は緩やかな低下傾向にあります。15～64歳（生産年齢人口）は低下が続いており、反対に65歳以上（老年人口）は上昇しています。

■年齢3区分別人口・高齢化率の推移



資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）

■年齢3区分別人口構成比の推移



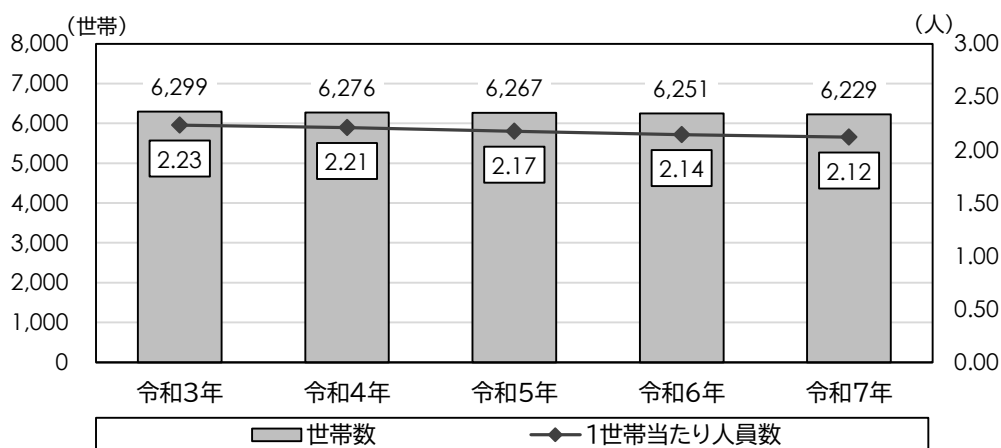
資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）

(2) 世帯の状況

①世帯数の推移

世帯数についてみると、令和3年から緩やかな減少が続き、令和7年で6,229世帯となっています。1世帯当たりの人員数は徐々に減少する傾向にあり、核家族化やひとり暮らし世帯の増加がうかがえます。

■世帯数及び世帯人員数の推移

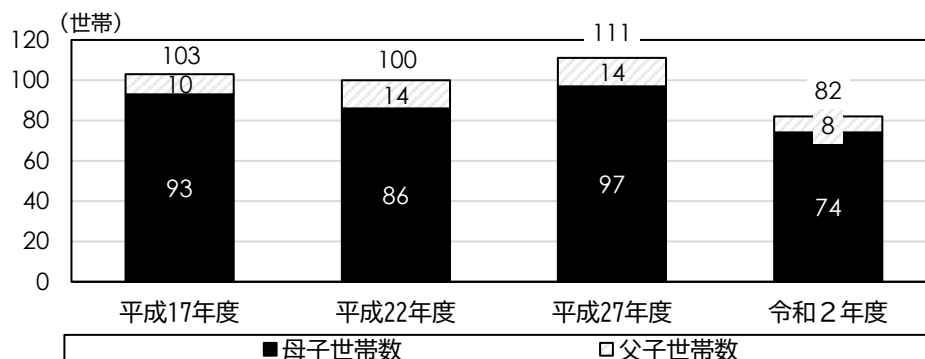


資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）

②ひとり親世帯

ひとり親世帯についてみると、平成27年度には母子世帯数が97世帯まで増加したものの、令和2年度に減少し、現在は母子世帯74世帯・父子世帯8世帯の合計82世帯となっています。

■ひとり親世帯数の推移



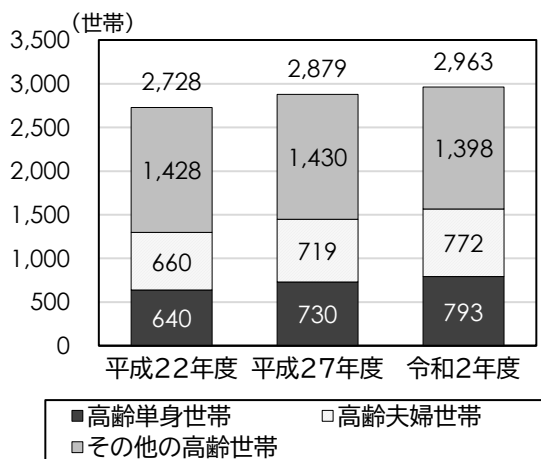
資料：国勢調査

③高齢者のいる世帯

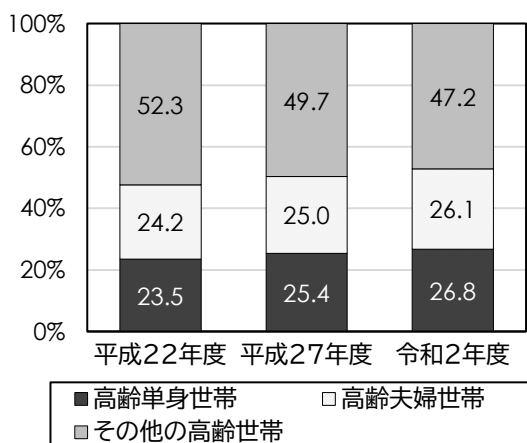
高齢者のいる世帯についてみると、平成22年度から令和2年度にかけて増加が続いています。特に、高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯※が増加しています。

高齢者世帯の状況別では、高齢単身世帯の割合が高まっており、令和2年度で26.8%となっています。高齢者のいる世帯のうち、半分以上が高齢者のみの世帯となっています。 ※高齢夫婦世帯…夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

■ 高齢者世帯数の推移



■ 高齢者世帯の状況別割合の推移



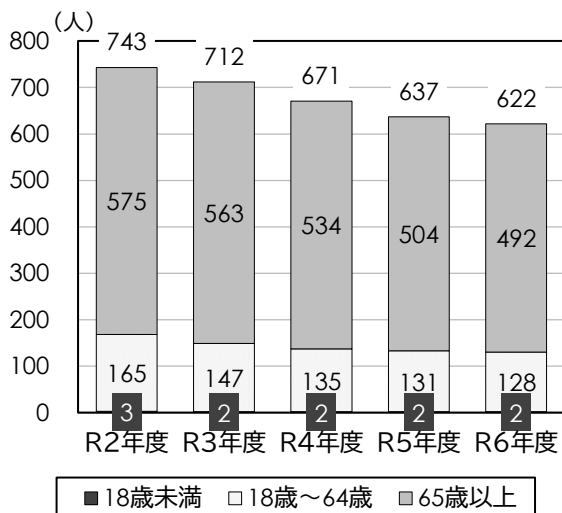
資料：国勢調査

(4) 障がいのある人の状況

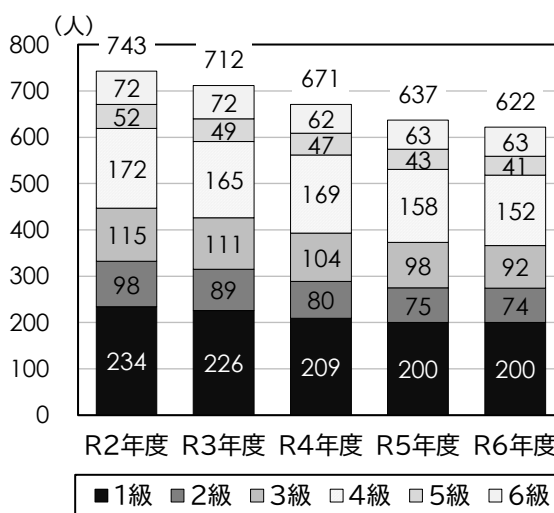
①身体障害者手帳所持者数

身体障害者手帳所持者数についてみると、年齢3区分別では、18～64歳及び65歳以上の人数が減少しています。全体の合計人数も減少が続ぎ、令和6年度で622人となっています。等級別では、いずれの等級においても減少がみられます。

■ 年齢3区分別身体障害者手帳所持者数の推移



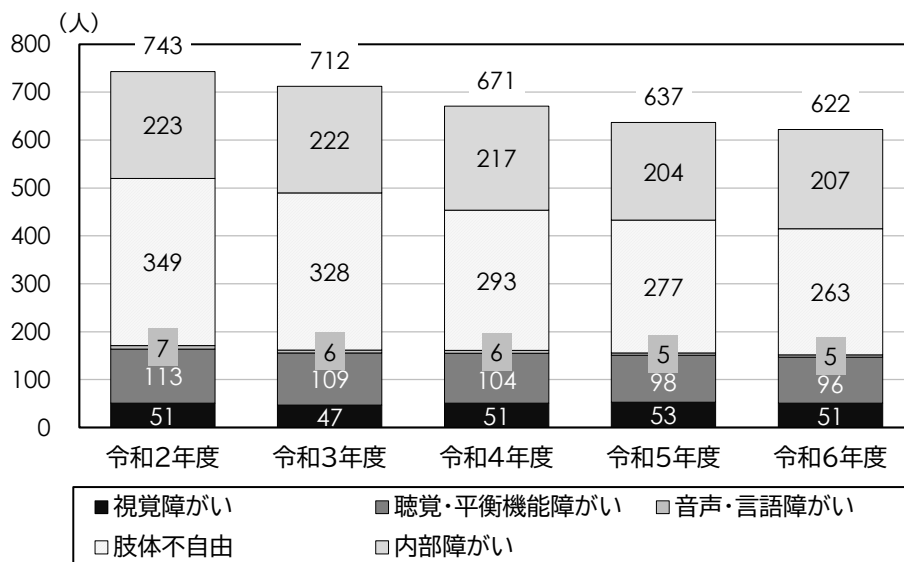
■ 障害等級別身体障害者手帳所持者数の推移



資料：東みよし町 福祉課（各年度3月末日現在）

障がいの種類別に人数をみると、視覚障がい及び音声・言語障がいについては、あまり大きな変化はありません。そのほかの障がいでは、人数が減少しています。特に肢体不自由については、令和2年度の349人に対して令和6年度は263人であり、86人の減少となっています。

■障がいの種類別身体障害者手帳所持者数の推移



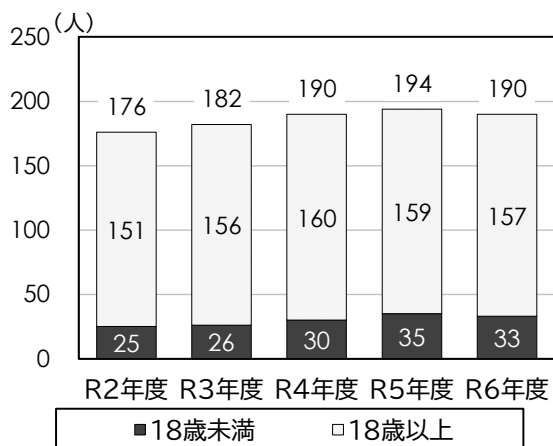
資料：東みよし町 福祉課（各年度3月末日現在）

②療育手帳所持者数

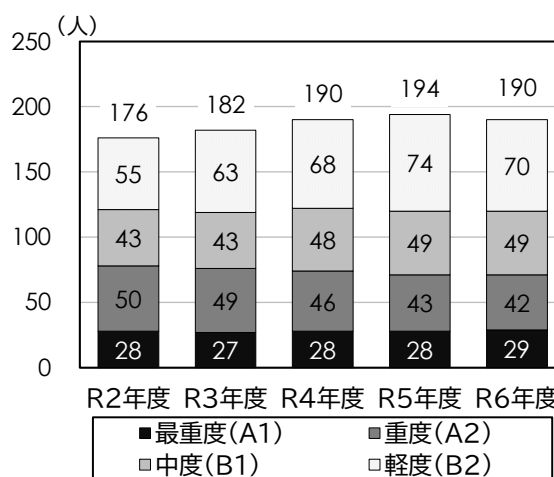
療育手帳所持者数についてみると、年齢2区分別では、18歳未満が増加しています。全体の合計人数は令和5年度をピークに増加しており、令和6年度で190人となっています。

等級別では、最重度（A1）は現状維持、重度（A2）は人数が減少しているのに対し、中度（B1）と軽度（B2）は増加しています。

■年齢2区分別療育手帳所持者数の推移



■障害等級別療育手帳所持者数の推移

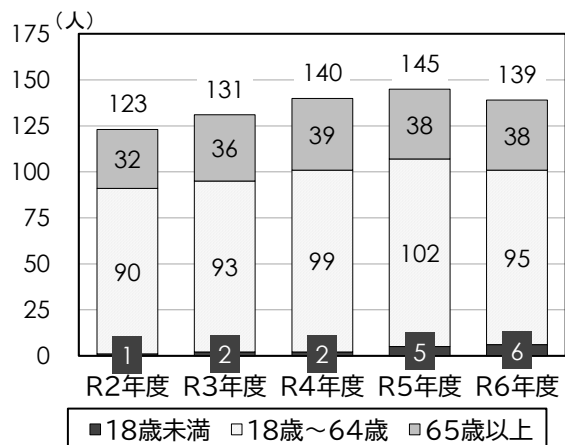


資料：東みよし町 福祉課（各年度3月末日現在）

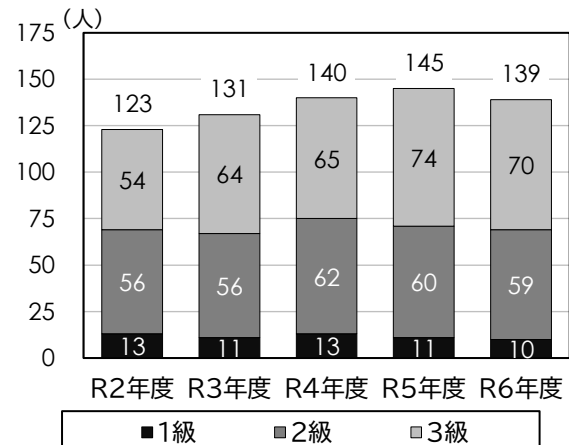
③精神障害者保健福祉手帳所持者数

精神障害者保健福祉手帳所持者数についてみると、年齢3区分別では、少人数ではありますが、18歳未満が増加しています。全体の合計人数は、令和5年度をピークに増加したのちに減少に転じ、令和6年度に139人となっています。等級別では、3級が令和5年度にかけて増加したものの、令和6年度に減少しています。

■年齢3区分別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移



■障害等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

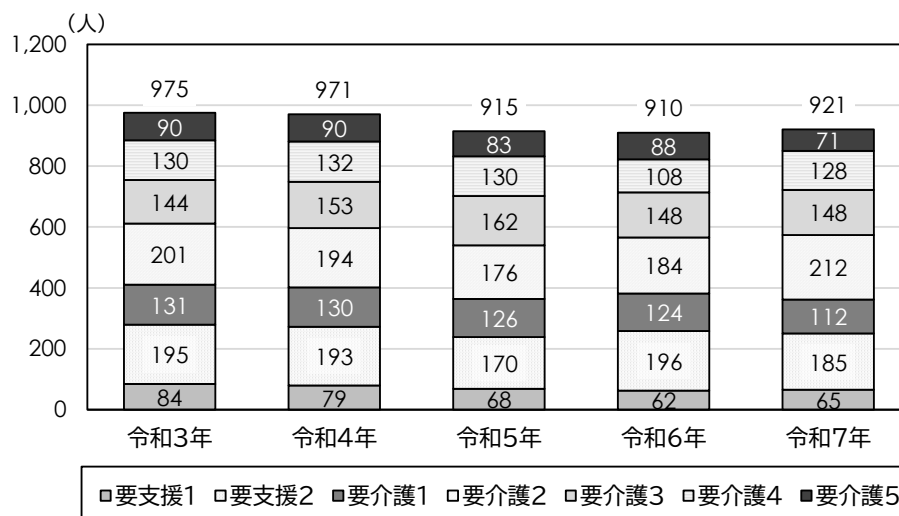


資料：東みよし町 福祉課（各年度3月末日現在）

(5) 要支援・要介護認定者数

要支援・要介護認定者数についてみると、全体の人数は令和3年から令和6年まで減少が続いたものの、令和7年に増加に転じ、921人となっています。認定区分別の割合に大きな変化はみられません。

■要支援・要介護認定者数の推移



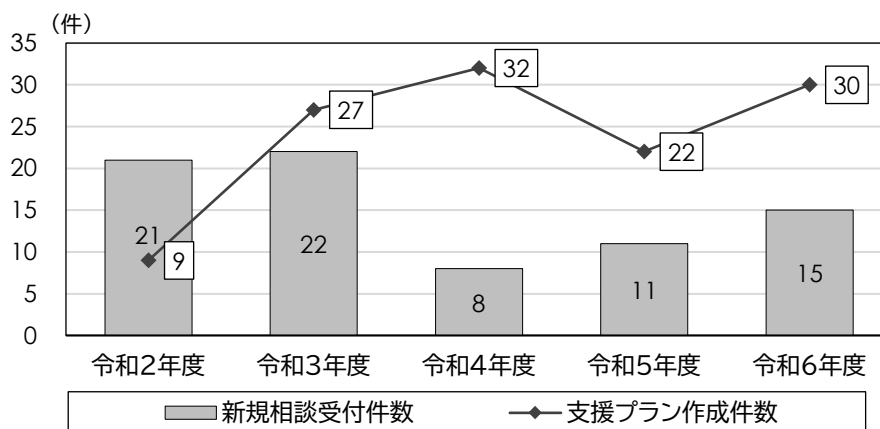
資料：介護保険事業状況報告（各年9月末日現在）

(6) 支援を必要とする人の状況

①生活困窮者自立支援制度の利用状況

生活困窮者自立支援制度の利用状況についてみると、新規相談受付件数は令和3年度から令和4年度にかけて半減し、その後は徐々に増加しています。令和6年度には15件となっています。一方で、支援プラン作成件数は、令和2年度から令和3年度にかけて倍増し、以降も30件前後で推移しています。

■生活困窮者自立支援制度による自立相談支援事業の利用状況の推移



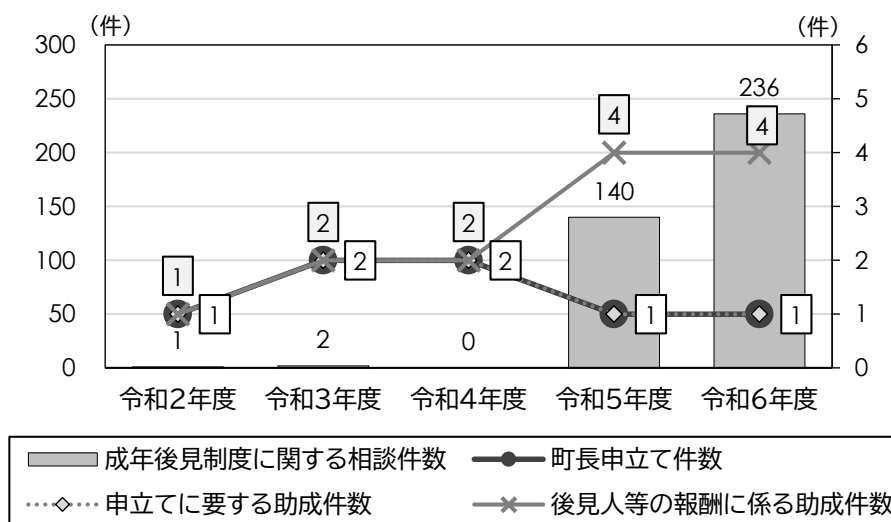
資料：東みよし町社会福祉協議会

②成年後見制度の利用状況

成年後見制度の利用状況についてみると、相談件数は町権利擁護センターが設置された令和5年度から急増しており、令和6年度で236件となっています。

町長申立て件数、申立てに要する助成件数は同数で推移しており、令和6年度に1件です。後見人等の報酬に係る助成件数は、令和6年度に4件となっています。

■成年後見制度に関する相談件数・町長申立て件数、助成状況の推移



資料：東みよし町社会福祉協議会、東みよし町 福祉課

(7) 地域活動の状況

① ボランティア登録

ボランティア登録についてみると、団体登録数・個人登録数ともに減少傾向にあります。特に団体登録の人数減少が顕著で、令和3年度から令和7年度9月の間で47人減少しています。

■ ボランティア団体登録数、個人登録数の推移 単位：団体、人

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
団体登録	団体数	13	13	12	12	11
	人数	280	262	250	234	233
個人登録		14	12	12	8	9

資料：東みよし町社会福祉協議会（各年度3月末日現在、令和7年度は9月末日現在）

② 老人クラブ

老人クラブについてみると、クラブ数は維持していますが、会員数は年間30～40人前後の減少が続いています。令和7年度9月時点の会員数は458人で、令和3年度末からの3年6か月で139人減となっています。

■ 老人クラブ数・会員数の推移 単位：団体、人

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
老人クラブ数	9	9	9	9	9
会員数	597	563	520	485	458

資料：東みよし町社会福祉協議会（各年度3月末日現在、令和7年度は9月末日現在）

③ ふれあい・いきいきサロン

サロン数についてみると、コロナ禍をきっかけに活動の制限と、参加しない人が増え、令和4年度に大きく減少しています。登録人数についても減少が続いています。

■ サロン数・登録者数の推移 単位：団体、人

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
サロン数	45	40	42	40	39
登録者数	496	491	500	499	463

資料：東みよし町社会福祉協議会（各年度3月末日現在、令和7年度は9月末日現在）

2. 町民アンケート調査結果からみる現状と課題

第4期地域福祉計画の策定に当たり、町民の福祉に対する考えやニーズを把握するため、東みよし町がアンケート調査を実施しました。概要は以下のとおりです。

■調査概要

	町民アンケート調査	こどもアンケート調査
調査対象者	東みよし町在住の満18歳以上の方 (無作為抽出)	東みよし町内の小学校5年生及び 中学校2年生
調査期間	令和7年7月20日(日) ～8月11日(月)	令和7年7月10日(木) ～7月26日(土)
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入、 もしくはWEB回答	学校を通じた依頼・WEB回答
配布数	1,000件	-
有効回収数	433件	208件
回収率	43.3%	-

■調査結果の見方

(共通)

- ◆ 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本計画書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◆ 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◆ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◆ 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◆ 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

(町民アンケート調査)

- ◆ 前回調査は「東みよし町 福祉のまちづくりに関するアンケート調査(令和2年度)」を指します。町内の自治会加入世帯4,260世帯を対象に実施しました。(配布4,260件、回収736件、回収率17.3%)
- ◆ 本計画書においては、前回の集計対象者総数を「n=736」とし、限定設問は該当する選択肢の回答件数を集計対象者数としています。

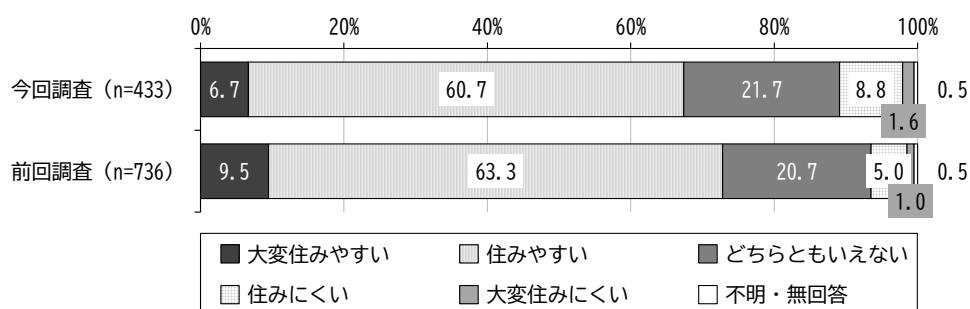
(1) 町民アンケート調査結果

① 住みやすさについて

住みやすさについて尋ねると、67.4%が住みやすいと回答しました。一方で、住みにくいと感じている人も1割以上おり、支援の充実が求められます。住みにくいという回答の割合は、年齢別では30歳代・40歳代、地区別では中庄地区・昼間地区で比較的高くなっています。

住みやすい理由としては、「自分の家・土地に愛着がある」「自然環境がいい」といった意見が多く挙がりました。反対に、住みにくい理由としては、買い物や外食、交通といった暮らしの不便さが多くなっています。

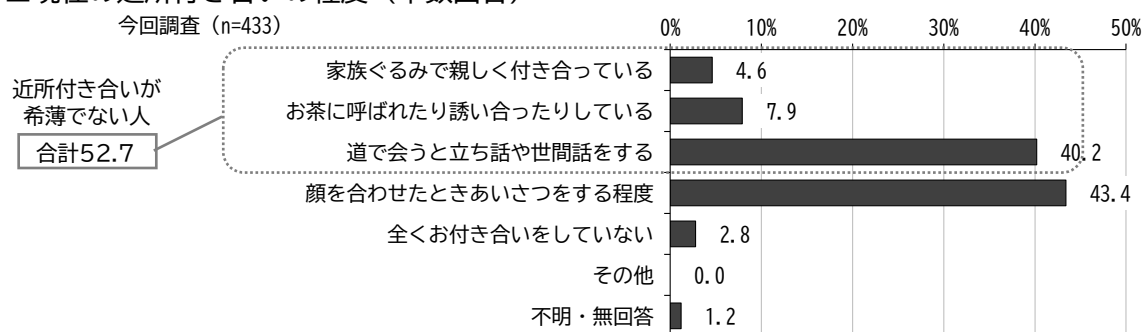
■ 現在住んでいるところの住みやすさ（単数回答）



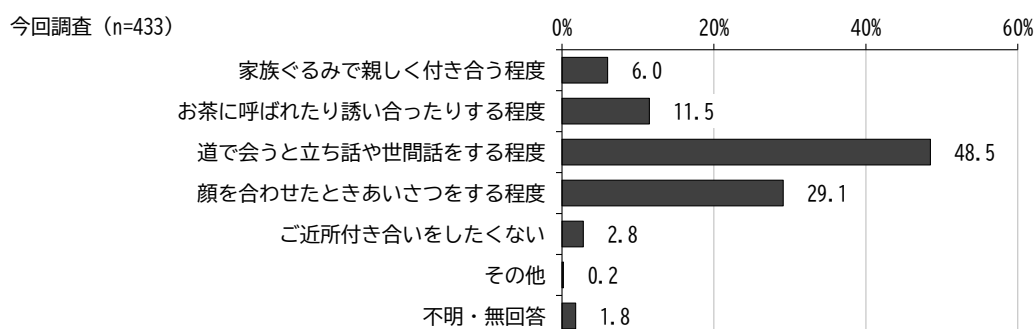
② 近所付き合いについて

現在の近所付き合いについて尋ねると、「あいさつ程度」が43.4%で最も高く、次いで「会うと立ち話をする」が40.2%となっています。一方で、理想の近所付き合いについても尋ねたところ、現在よりも親しい付き合いを望む人が多い傾向にありました。

■ 現在の近所付き合いの程度（単数回答）



■ 理想の近所付き合いの程度（単数回答）

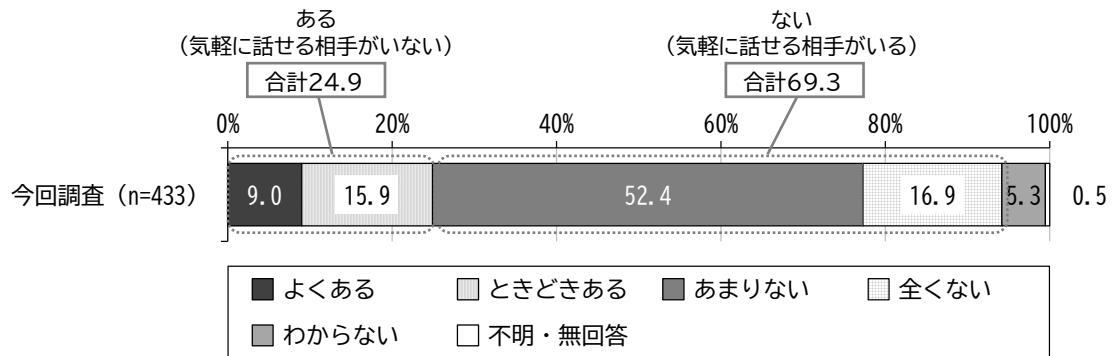


③孤独・孤立の状況について

地域で気軽に話せる相手がいなく感じるものの有無について尋ねると、「ある」の割合が合計24.9%、「ない」の割合が合計69.3%となっています。

地域で孤独感・孤立感を感じている人が一定数いることが示されました。

■地域で気軽に話せる相手がいなく感じるものの有無（単数回答）

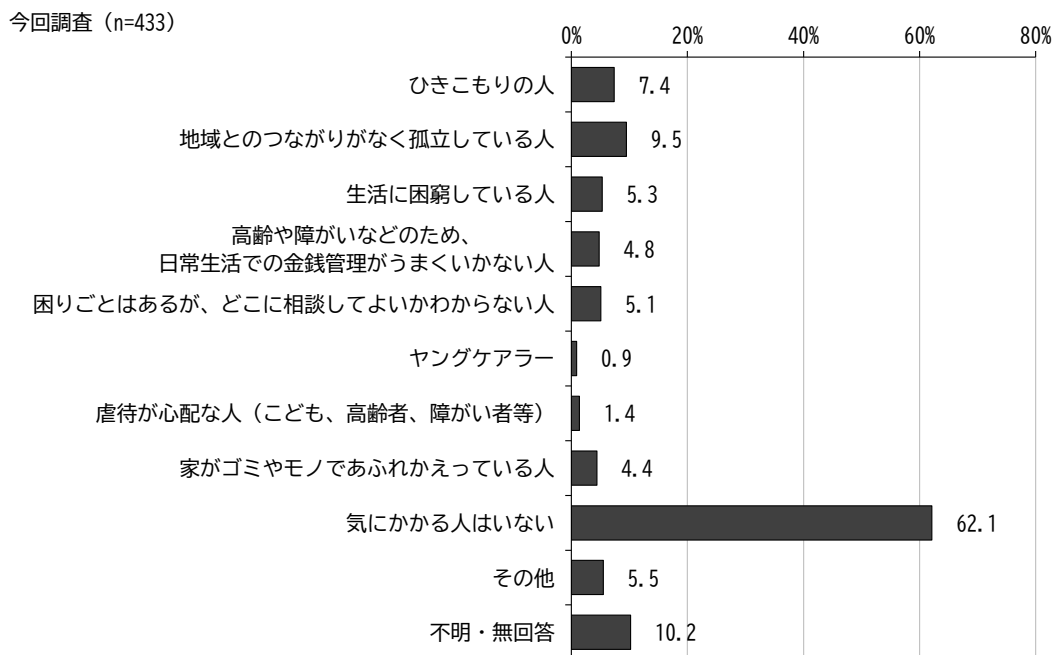


④近所の気にかかる人（支援が必要と思われる人）について

近所の気にかかる人について尋ねると、「孤立している人」「ひきこもりの人」といった回答が寄せられました。必要な支援につながっていないことが予想されます。

その他の回答として、「付き合いがないからわからない」という意見も一定数ありました。

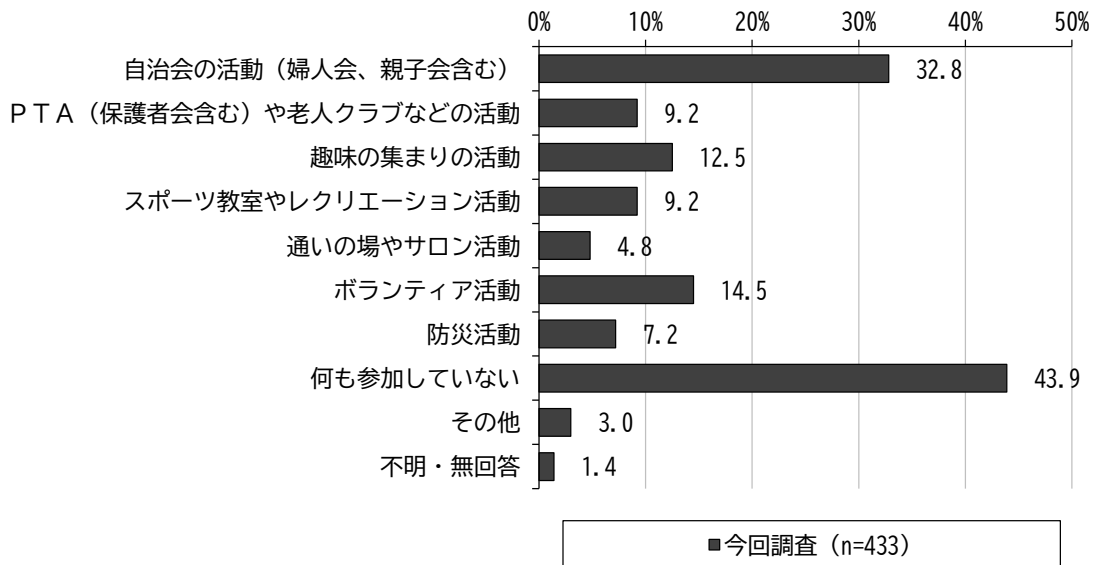
■回答者自身を含めた、近所の気にかかる人（支援が必要そうな人）（複数回答）



⑤地域活動への参加状況について

地域活動への参加状況について尋ねると、「何も参加していない」が43.9%と最も高く、次いで「自治会の活動（婦人会、親子会含む）」が32.8%となっています。いずれかの活動に参加している人は54.7%となっています。

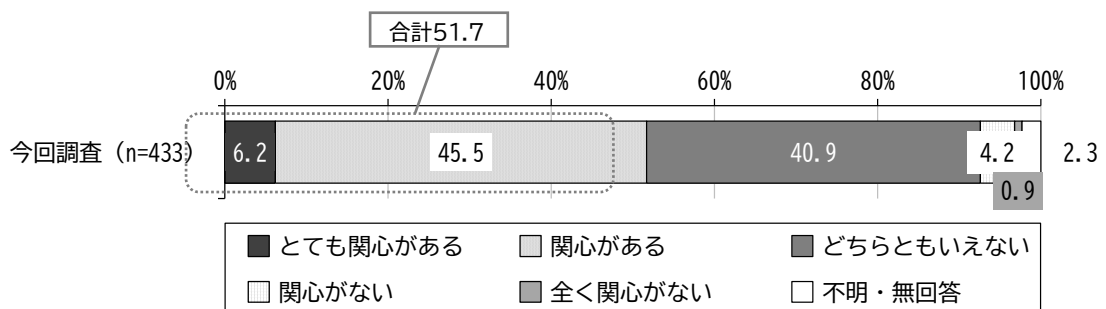
■参加している地域活動（複数回答）



⑥福祉への関心について

福祉に関心があるか尋ねると、「関心がある」が45.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が40.9%となっています。関心がある人の合計は51.7%であり、約半数となっています。なお、年齢や性別による傾向の差はあまりみられません。

■福祉への関心度（単数回答）

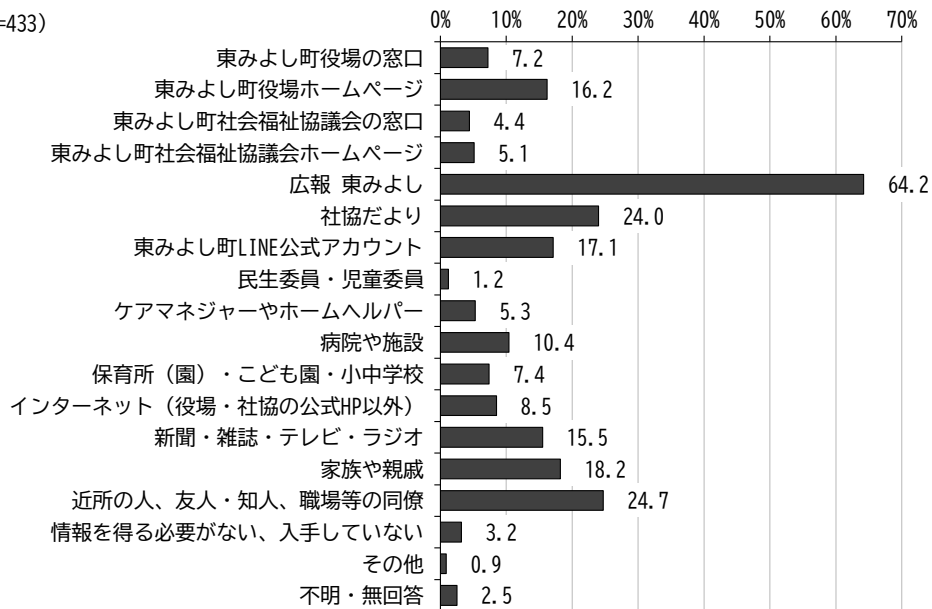


⑦福祉情報の入手について

福祉に関する情報の主な入手先を尋ねると、「広報 東みよし」が64.2%と最も高く、主要な情報入手手段となっています。年齢別にみると、30歳代から50歳代では「東みよし町公式LINE」も20%を超えており、新たな情報源として定着しつつあります。

■福祉に関する情報の入手先（複数回答）

今回調査 (n=433)

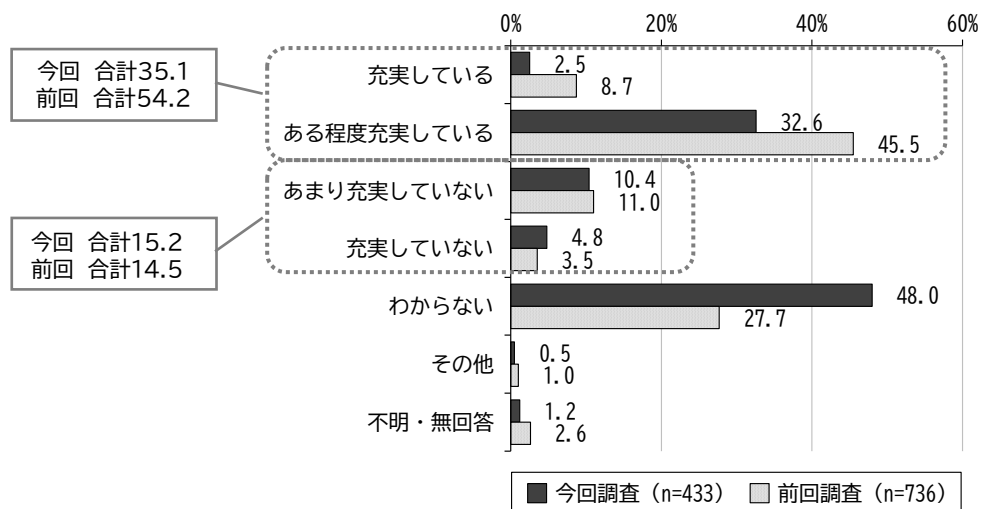


⑧福祉サービスの充実度について

現在の福祉サービスへの考えについて尋ねると、「わからない」が48.0%と最も高く、次いで「ある程度充実している」が32.6%となっています。

前回調査と比較して、充実していると感じる割合が低減し、「わからない」が上昇しています。

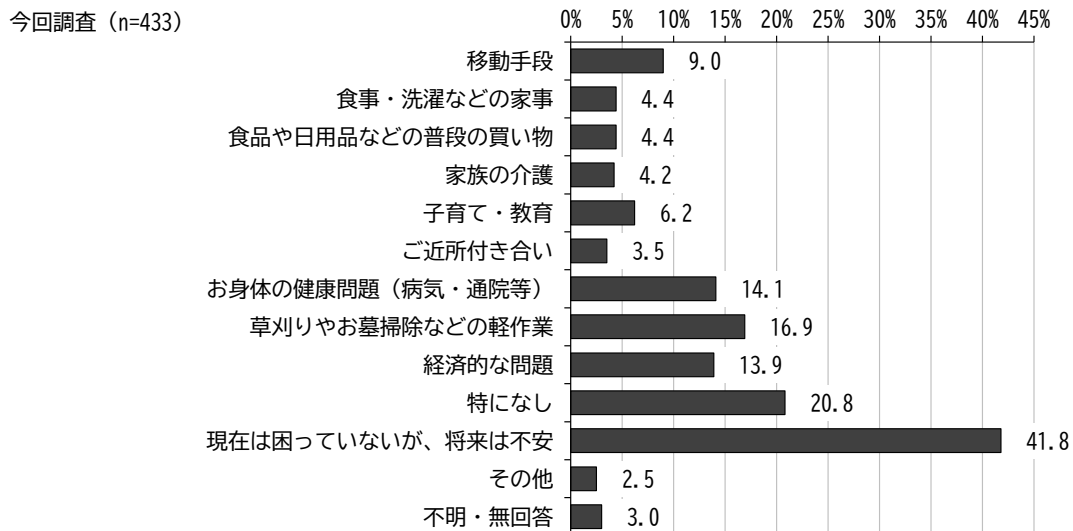
■東みよし町の現在の福祉サービスへの考え（単数回答）



⑨日常生活の困りごとについて

日常生活の困りごとについて尋ねると、「草刈りなど軽作業」「健康問題」「経済的な問題」が多く挙がりました。年齢別にみると、現役世代は経済面、高齢になるにつれ健康問題に困難を抱えています。「現在は困っていないが、将来は不安」については、50歳代から70歳代で50%を超えています。

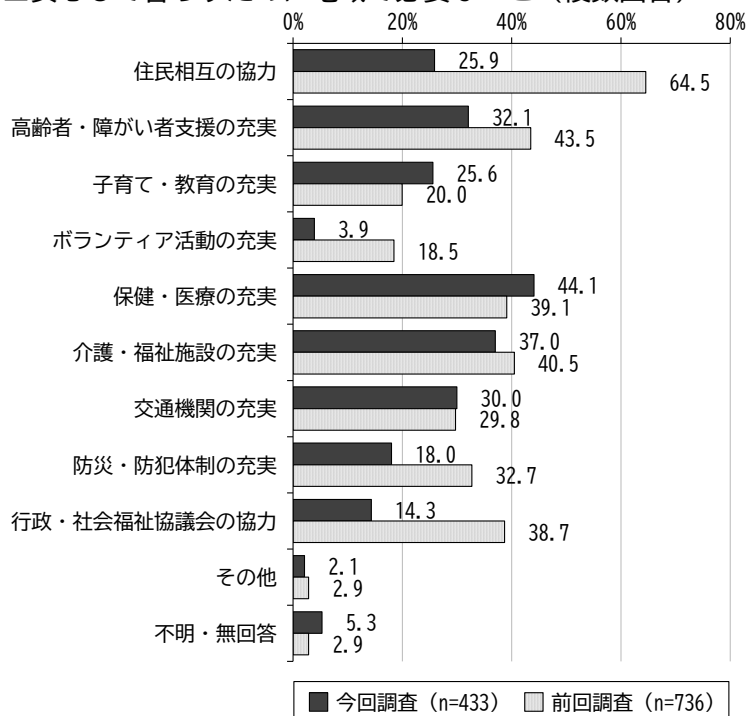
■日常生活で困っていること（複数回答）



⑩安心して暮らすために地域で必要なことについて

誰もが安心して暮らしていくために、地域で必要だと思うことについて尋ねると、「保健・医療の充実」44.1%を筆頭に、公助の取組が多く挙げられました。

■安心して暮らすために地域で必要なこと（複数回答）



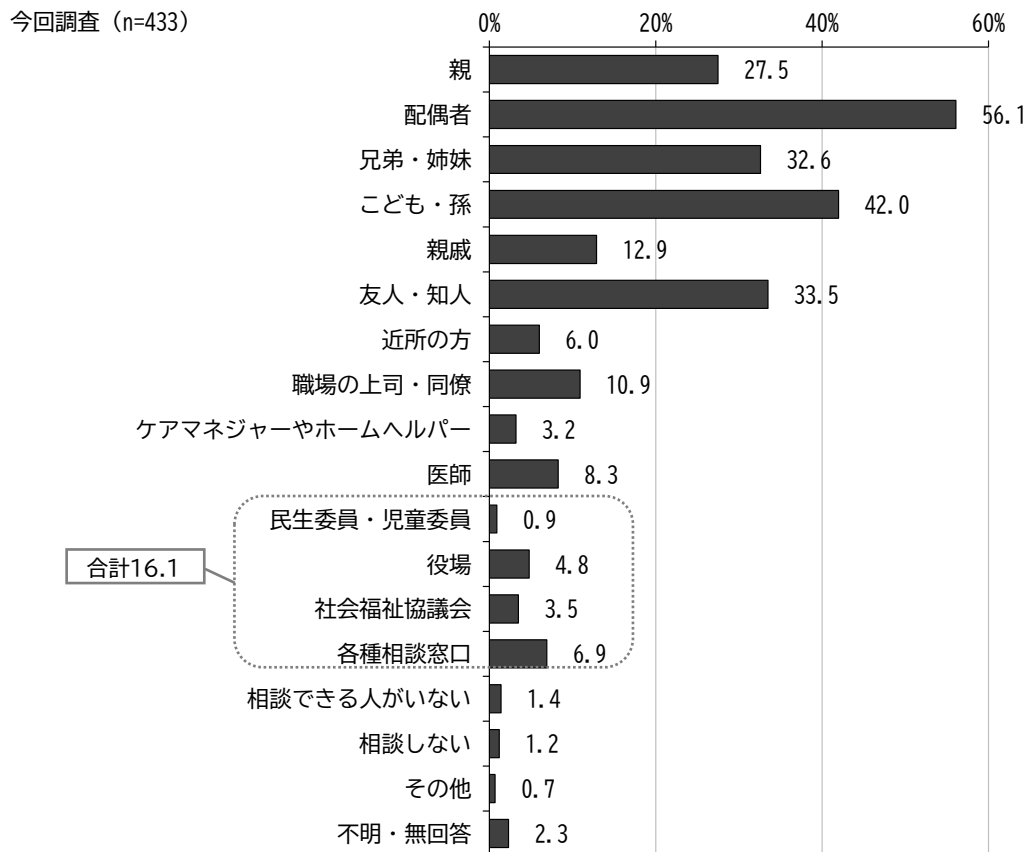
互助・共助に当たる「住民相互の協力」が前回調査から38.6ポイント減少しています。支え合いの大切さを伝える取組が求められます。

⑪ 困りごとの相談先について

困りごとや問題ができた場合の相談先について尋ねると、「配偶者」が56.1%と最も高く、次いで「こども・孫」が42.0%、「友人・知人」が33.5%となっており、身近な人や家族が多く挙がっています。

一方で、「民生委員・児童委員」「役場」「社会福祉協議会」「各種相談窓口」といった公的な相談窓口を相談先としている回答は、合計16.1ポイントにとどまりました。

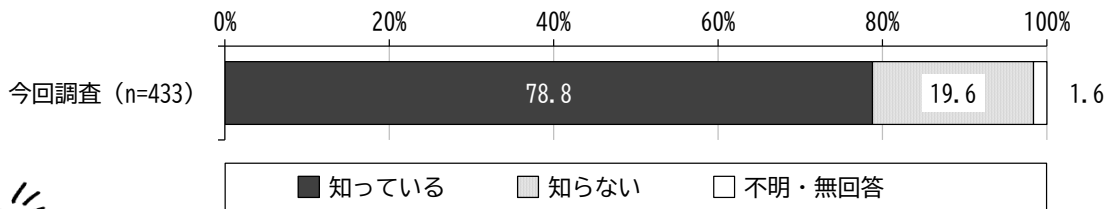
■ 困りごとや問題ができた場合の相談先（複数回答）



⑫災害時の避難所について

自分が住んでいる地区の災害時の避難場所を知っているか尋ねると、「知っている」が78.8%、「知らない」が19.6%となっています。年齢別にみると、「知らない」は30歳代と80歳以上で30%台に上りました。

■自分が住んでいる地区の災害時の避難場所の認知度（単数回答）

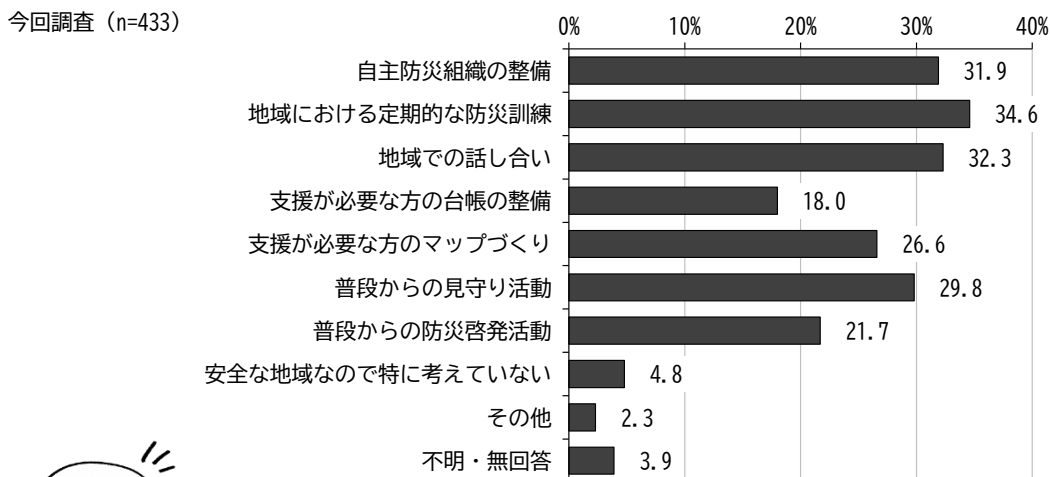


居住年数が短いほど「知らない」の割合が高くなり、居住5年未満では半数を超えていました。いざという時に命を守る行動をとれるよう、避難場所の情報が届いていない層へのアプローチが必要です。

⑬災害時の支え合いに必要なことについて

災害時の支え合いに必要なことについて尋ねると、「定期的な防災訓練」「地域での話し合い」「自主防災組織の整備」など、地域全体で備える行動が多く挙げられました。「特に考えていない」の割合は低く、危機感を持っている人の多さがうかがえます。

■災害時に住民同士が支え合う地域づくりに必要なこと（複数回答）



今回のアンケートで、災害や緊急事態に家族や地域の人たちが適切に避難できるかについて、43.6%が「避難できないと思う」と回答しました。「全員で避難するビジョン」を持てる取組が求められます。

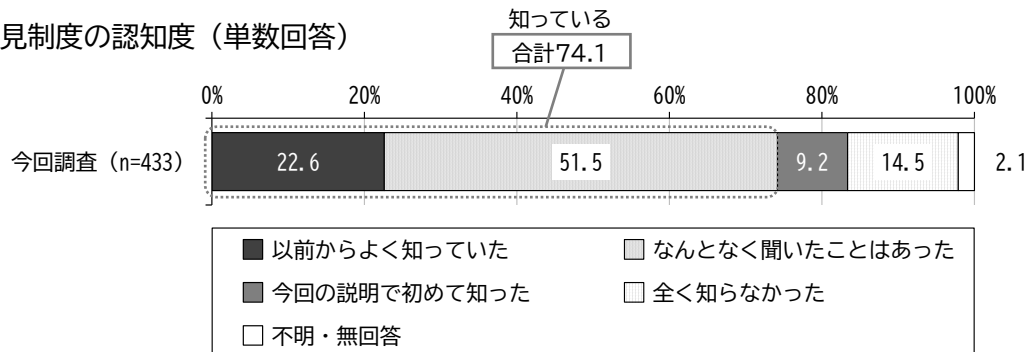
⑭成年後見制度について

成年後見制度を知っているか尋ねると、「なんとなく聞いたことはあった」が51.5%と最も高く、次いで「以前からよく知っていた」が22.6%となっています。成年後見制度の周知、浸透が進んでいます。

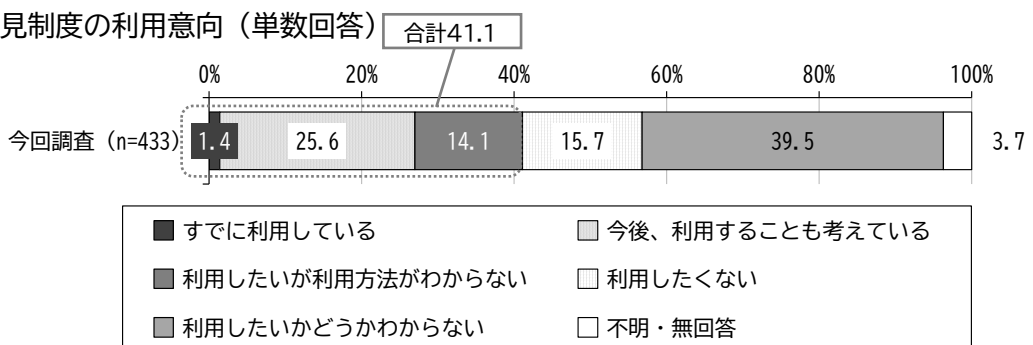
成年後見制度の利用意向について尋ねると、利用を希望する人が4割に上りました。本町の権利擁護センターを中心に、支援体制の充実が求められます。

また、権利擁護センターに期待することを尋ねると、「制度のわかりやすい説明」が最も高くなっていました。成年後見制度のニーズの高まりに応え、当人や家族が安心して利用できる体制の整備が重要です。

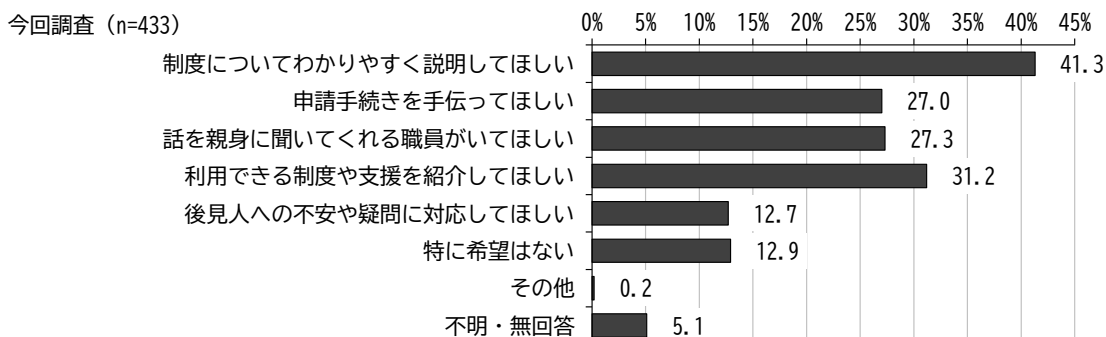
■成年後見制度の認知度（単数回答）



■成年後見制度の利用意向（単数回答）



■権利擁護センターに期待すること（複数回答）

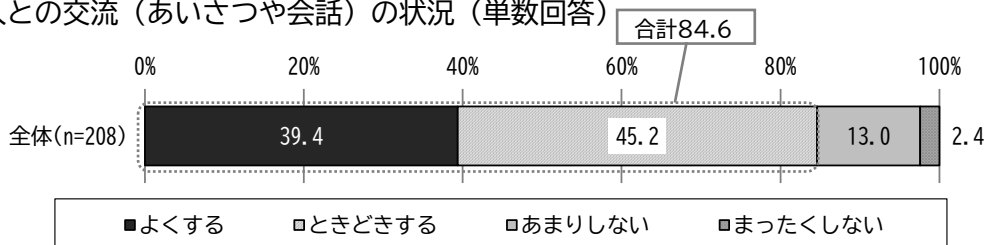


(2) こどもアンケート調査結果

①地域住民との交流について

地域住民との交流(あいさつ等)について尋ねると、「よくする」39.4%、「ときどきする」45.2%と、多くの子どもが交流に積極的に取り組んでいる状況がうかがえました。

■地域の人との交流(あいさつや会話)の状況(単数回答)

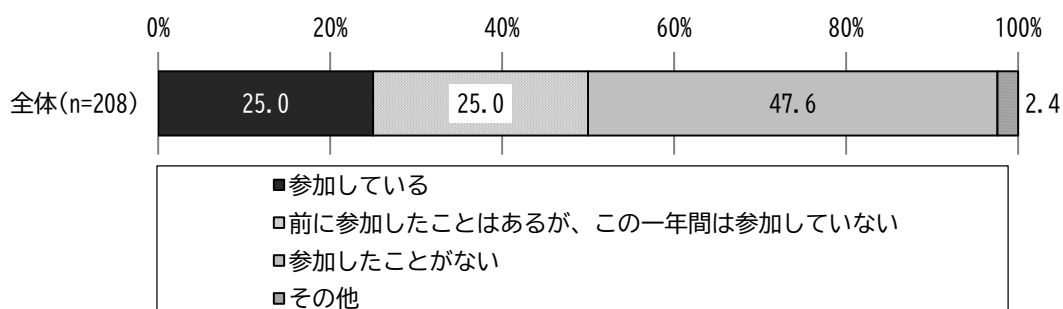


②地域活動への参加について

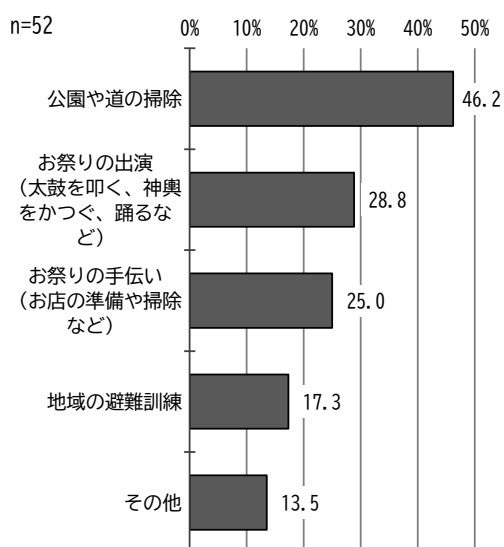
地域活動への参加について尋ねると「参加したことがない」が47.6%に上りました。参加している地域活動は、「公園や道の掃除」が46.2%、続いてお祭り関係となっています。

一方で、地域活動に参加していない理由は、「興味がないから」が43.7%、「学校や習いごとで忙しいから」が33.8%で上位となっています。

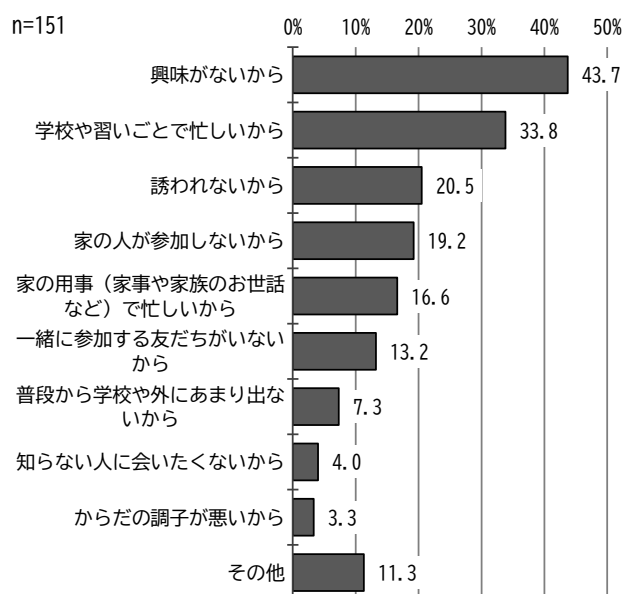
■地域活動(祭りの手伝い・出演、地域の避難訓練、公園や道の掃除など)への参加状況(単数回答)



■(参加している場合) 地域活動の内容(複数回答)



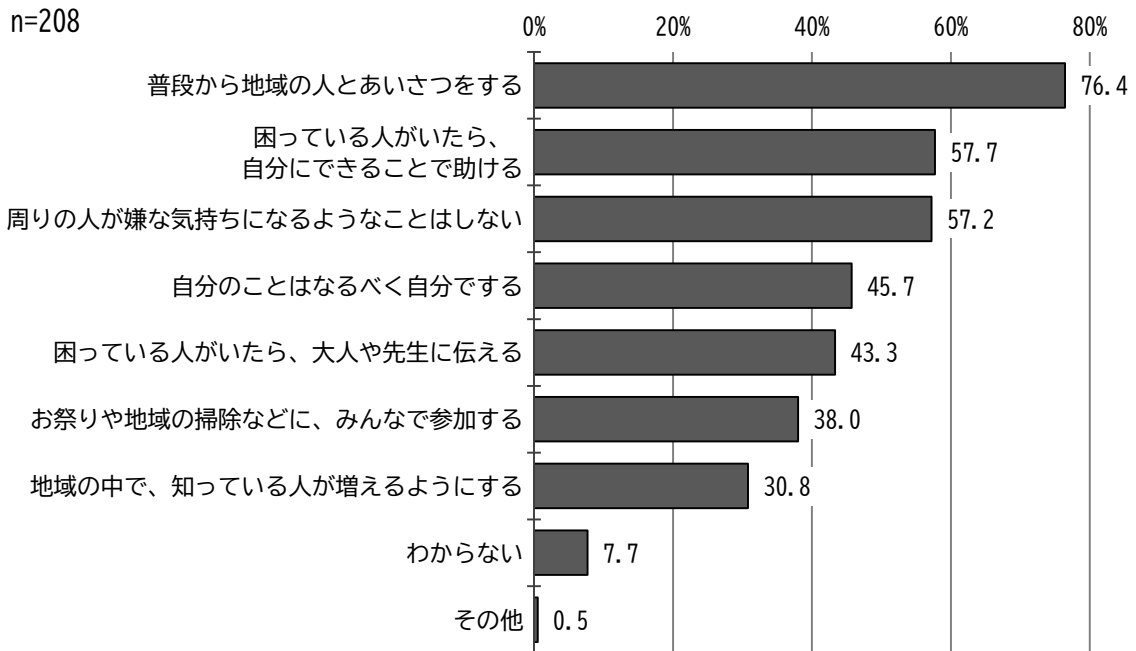
■(一年間は参加していない場合) 参加していない理由(複数回答)



③地域福祉への考えについて

地域でみんなが安心して暮らすために大切だと思うことについて尋ねると、「普段から地域の人とあいさつをする」が76.4%で最多となっていました。あいさつや顔見知りになることの重要性は、子どもにも伝わっていることがうかがえます。

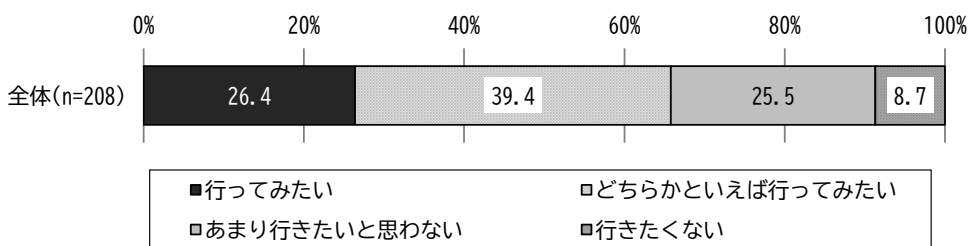
■地域でみんなが安心して暮らすために大切だと思うこと（複数回答）



④地域の居場所の利用意向について

学校や家以外で相談や食事ができるような「地域の居場所」の利用意向について尋ねると、「行ってみたい」「どちらかといえば行ってみたい」を合わせて65.8%が関心を示しました。

■「学校や家以外で、相談や食事ができる場所」の利用意向（単数回答）



今回のアンケートで、保護者が地域活動に参加している家庭では、子どももまた参加する傾向にあるとわかりました。周りの大人の参加状況が、子どもに影響していると考えられます。地域の居場所で地域の人と交流することは、子どもが地域活動に参加し、地域に親しむきっかけになると期待されます。

(3) 団体ヒアリング調査結果

本計画の策定に当たり、本町の地域福祉の現状と課題をより詳細に把握するため、各種福祉事業に関する取組を実施又は支援する団体等を対象に、ヒアリング調査を実施しました。概要は以下のとおりです。

■調査概要

調査対象者	公共施設、社会福祉法人、その他地域福祉に関する地域貢献活動を実施している団体・事業所等
調査期間	ヒアリングシート：令和7年7月18日（金）～8月18日（月） 対面ヒアリング：令和7年10月3日（金）
調査方法	ヒアリングシートへの記入及び 対面によるヒアリング
実施団体数	ヒアリングシート：21団体（21団体回答） 対面ヒアリング：2団体

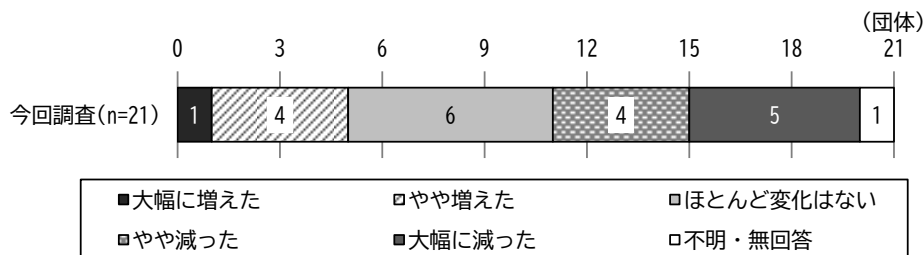
■調査結果の見方

- ◆ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◆ 図表中の「n(number of case)」は、集計対象者総数を表しています。
- ◆ 本文中の設定問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◆ 前回調査は第3期計画策定に係る団体ヒアリング(令和2年度)を指します。(配布21団体、回収17団体)

①人数の変化について

およそ5年前と比較した団体の人数の変化について尋ねると、「ほとんど変化はない」が6団体と最も多く、次いで「大幅に減った」が5団体、「やや増えた」「やや減った」がともに4団体となっています。会員（職員）数が減少している団体が多い傾向にあります。

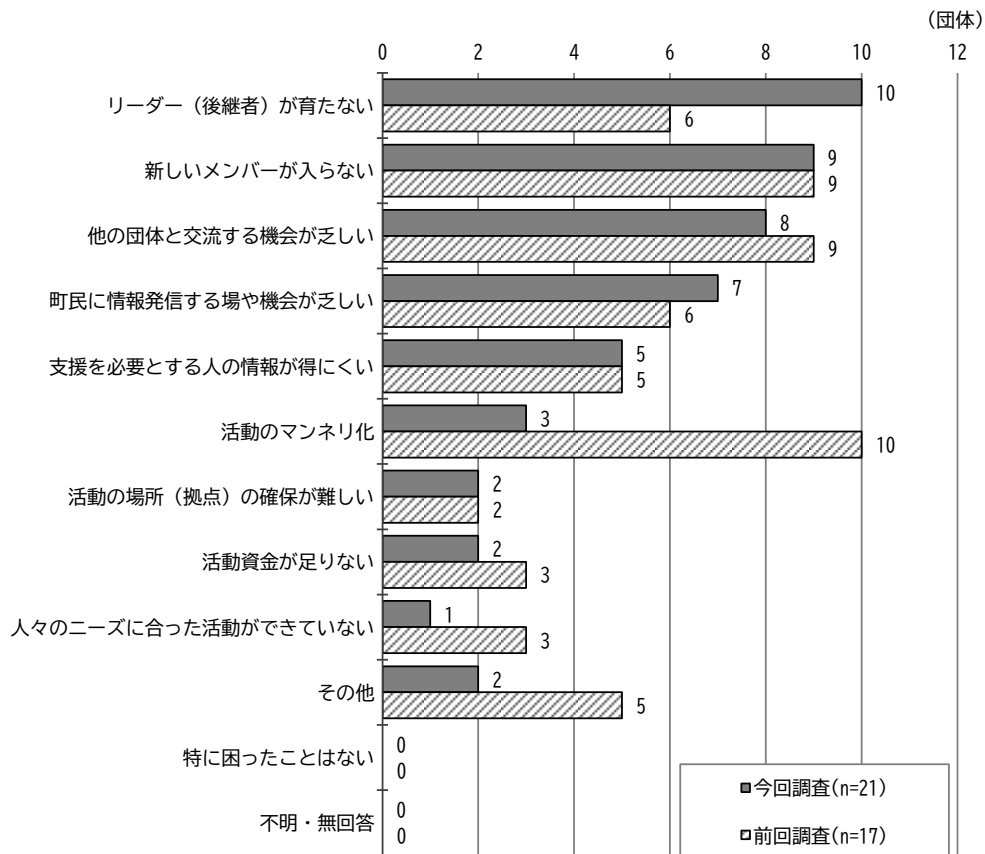
■およそ5年前と比較した会員（職員）の人数（単数回答）



②活動上の困りごとについて

活動上の困りごとについて尋ねると、「リーダー（後継者）が育たない」が10団体と最も多く、次いで「新しいメンバーが入らない」が9団体、「他の団体と交流する機会が乏しい」が8団体となっています。前回調査と比較して「リーダー（後継者）不足」が深刻な課題となっています。また、人材不足が引き続きの課題となっています。

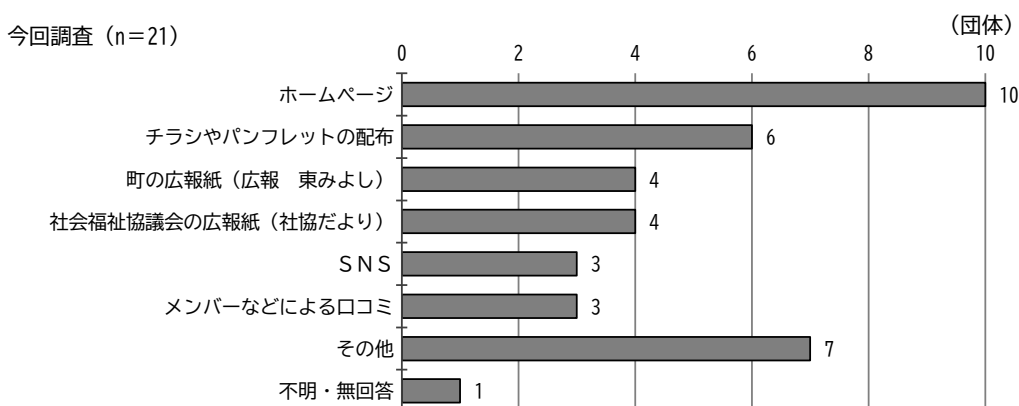
■活動を行う上で困っていること（複数回答）



③団体の情報発信手段について

「ホームページ」が10団体と最も多く、次いで「その他」（団体独自の広報紙など）が7団体、「チラシやパンフレットの配布」が6団体となっています。

■（単数回答）

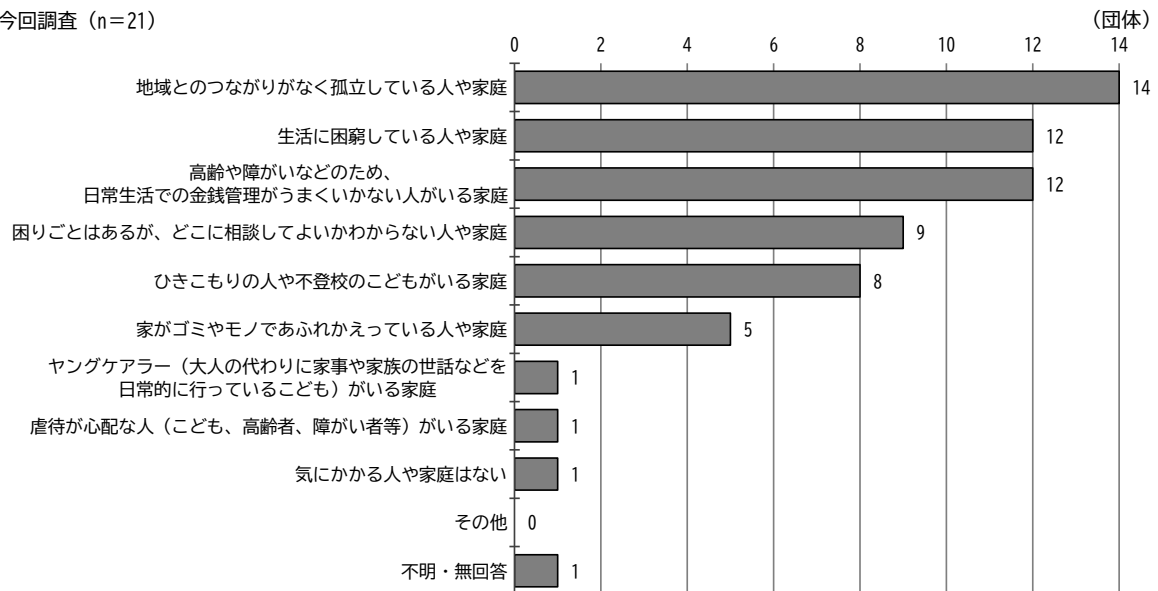


④気にかかる人や家庭について

団体が活動する中で気にかかる（支援が必要そうな）人や家庭について尋ねると、「地域とのつながりがなく孤立している人や家庭」が14件で最多でした。いざという時に地域で支え合える関係を築くためにも、地域のつながりづくりが求められます。

■活動の中で気にかかる（支援が必要そうな）人や家庭（複数回答）

今回調査（n=21）

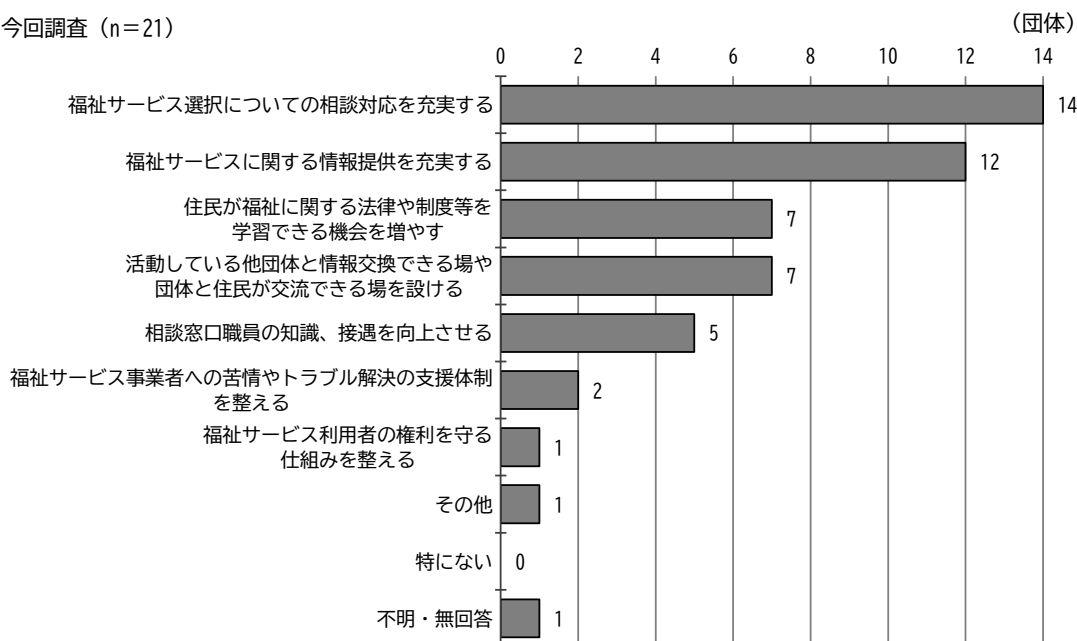


⑥地域福祉推進のための行政の取組について

地域福祉推進のために行政が取り組むべきことを尋ねると、「福祉サービス選択についての相談対応の充実」が14件で最多、次いで「福祉サービスに関する情報提供」となっています。

■地域福祉推進のために行政が取り組むべきこと（単数回答）

今回調査（n=21）



第3章 第4期東みよし町地域福祉活動計画

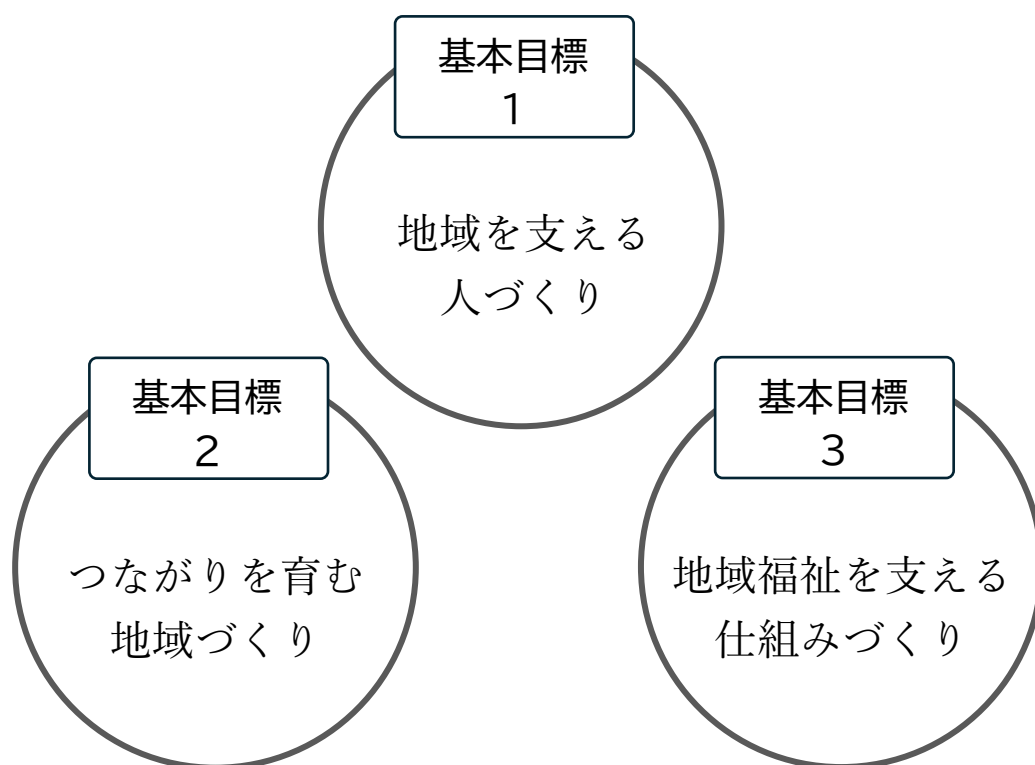
1. 東みよし町地域福祉活動計画

(1) キャッチフレーズ

自然とやさしさ 心ふれあう福祉の郷

(2) 基本目標

東みよし町第4期地域福祉計画で定める基本目標を、本活動計画の基本目標とし、『自然とやさしさ 心ふれあう福祉の郷 東みよし町』を目指した取り組みを推進していきます。



第4期東みよし町地域福祉計画・地域福祉活動計画で定める共通の基本目標

2. 基本目標に対する課題と主な取り組み

【基本目標 1】 地域を支える人づくり

地域福祉計画に記載されている“5年後に目指す姿”

- ◇一人一人が地域に関心を持ち、福祉を「自分ごと」として捉え、「お互いさま」の気持ちで支え合う地域
- ◇地域活動やボランティア活動の担い手が増加し、支え合いが活発に行われる地域
- ◇福祉を進める活動主体間の連携が深まり、持続可能な活動を支える環境が整っている地域

課題

- ◆異なる世代との関わりの減少
- ◆行事に参加する人（世帯）の減少
- ◆婦人会やボランティア団体への新規加入者の減少
- ◆話す機会の減少

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・意識してご近所間であいさつを行い、顔が見える関係をつくる
- ・地域にある福祉施設やこども園などの行事に積極的に参加する
- ・家族やご近所に積極的に声を掛けて、サロンや行事などへの参加を促す
- ・現在行っている地域活動やボランティア活動を継続する
- ・となり近所に声掛けをして、地域の行事やボランティア活動への参加を促し興味を持ってもらう

☆ 地域や団体で取り組むこと[共助]

- ・これまで続いてきたお祭りなどの行事を継続して興味を持ってもらう
- ・子どもや若い世代が気軽に参加でき、継続性がある行事やイベントを考える
- ・自治会活動として清掃やボランティアを考えて若い世代も巻き込み参加してもらう
- ・自治会活動の後に、世間話ができる時間を設けてつながりをつくる
- ・誰もが参加しやすく、負担の少ない組織体制を考える
- ・幅広い世代に興味を持ってもらえるような、楽しく参加しやすい活動を考える

☆ 社会福祉協議会が取り組むこと

- ・学校との連携を図り福祉学習の推進を行い、児童生徒の福祉への関心を育みます
- ・ボランティア連絡協議会の活動を通して、ボランティア団体同士の横のつながりを形成します
- ・中高生を対象としたボランティアスクールを開催し、ボランティア活動へのきっかけづくりを支援するとともに、ボランティア活動に対する知識と経験を深めてもらいます
- ・社会福祉大会で優れた活動を紹介し、福祉活動の普及、推進を行います
- ・社協ホームページやSNS、社協だよりで福祉や地域活動の情報発信をします

【基本目標 2】 つながりを育む地域づくり

地域福祉計画に記載されている“5年後に目指す姿”

- ◇住民同士が世代を超えて日常的に交流し、支え合い助け合う、顔の見える関係の根付いた地域
- ◇住民やボランティア団体等が総合事業に参画し、多様な担い手が連携して高齢者の自立した生活を支える地域
- ◇小地域活動が活発に行われ、身近なつながりによる支え合い・助け合いが根付いた地域
- ◇一人一人が防災意識を高くもって備え、地域ぐるみで支え合う体制ができている地域

課題

- ◆自治会に入らない人の増加 ◆自治会活動に参加しない人の増加
- ◆集まれる場所の減少 ◆空き家の増加による孤立世帯の増加

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・身近なご近所間で声を掛け合い、話しやすい関係をつくる
- ・身近なつながりを大切にし、地域の行事に参加しやすい関係をつくる
- ・美化活動などは、地域から離れた人にも声を掛けて参加してもらう
- ・サロン活動に参加してもらい興味を持ってもらう

☆ 地域や団体で取り組むこと[共助]

- ・助成金の活用など、自治会活動に魅力を持たせて、自治会活動への参加や、自治会に入ってもらえるような工夫を凝らす
- ・サロン活動を継続して、地域で集まれる居場所を提供する
- ・サロン活動でもレクリエーション用具などを活用し、多くの方が興味を持ちやすい活動を心がける
- ・空き家問題について話し合い、孤立する世帯とのつながりについて考える

☆ 社会福祉協議会が取り組むこと

- ・助成金の交付や保険加入で、サロン活動の継続を支援します
- ・生活支援コーディネーターの活動により地域のニーズを抽出し、高齢者の社会参加の促進を図ります
- ・さんわ会の開催を推進し、防災意識と自助力の向上や、支え愛マップの更新による地域での支え合いの仕組みを構築します
- ・多世代が交流できる「こども★さろん」の開催や、こども食堂の立ち上げ支援を行います

【基本目標 3】 地域福祉を支える仕組みづくり

地域福祉計画に記載されている“5年後に目指す姿”

- ◇複雑化・複合的な課題を抱えた人が取り残されることなく、適切な支援につながる地域
- ◇相談支援が充実し、誰もが必要な支援につながることで、安心して暮らせる地域
- ◇全ての人の権利が守られ、脅かされることなく安心して暮らせる地域
- ◇立ち直りを決意した人が孤立せず、地域社会の一員として暮らしていける地域

課題

- ◆複雑化・複合的な課題を抱えた人の増加
- ◆個人情報保護の観点から相談が難しい
- ◆サロンなど集まって相談をする場所はあるが、集まる地域の範囲が狭く情報交換に限界がある

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・相談支援や制度の情報に興味を持てるよう心がける
- ・サロン活動などを通して、相談しやすい関係づくりに努める
- ・世間話など何気ない会話の中に、相談しづらい問題が見え隠れするので、人と話をする機会を増やす

☆ 地域や福祉事業所で取り組むこと[共助]

- ・幅広い情報交換ができるように、サロン同士の横のつながりをつくる
- ・「責めない」「認める」「聴く」「話す」を大切にして、信じられる優しい地域づくりを目指して「いじめの撲滅」にもつなげていく
- ・サロン活動など、情報交換できる場所と機会を増やす
- ・支え愛マップで身寄りのない方の情報を共有する
- ・施設などが身近に感じられるよう、見学会などを開催する

☆ 社会福祉協議会が取り組むこと

- ・サロン連絡協議会の活動により、サロン同士の横のつながりを構築します
- ・相談支援員・就労相談支援員を配置し、支援員が中心となり関係機関等と連携して支援調整会議を開催し包括的に相談援助業務を行います
- ・心に寄り添うクリスマス事業やフードバンク事業などで、支援が必要な方とつながりを持ち、必要な支援につなげます
- ・総合相談の窓口を設け、関係機関との連携、調整により悩みごとの改善に努めます
- ・判断能力が十分でない方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう必要な支援を行い、権利擁護支援や成年後見制度利用促進を図る中核機関としての機能を有する権利擁護センターを運営します
- ・上記事業について、対象者に合わせた分かりやすい周知や情報発信に努めます

第4章 地区地域福祉活動計画

大藤・毛田・中庄 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	775	760	-15
人口(人)	1,596	1,444	-152
65歳以上の人口(人)	630	595	-35
高齢化率(%)	39.5	41.2	+1.7

<第4期キャッチフレーズ>

全員参加でつむぐ幸せ 集い、笑い、見守り合う 大藤・毛田・中庄

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)
<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会活動への参加者が減少した ◆コロナや高齢化により、お祭りや防災訓練などの行事の規模が縮小や中止になり集まる機会が減少した ◆井戸端会議などの近所づきあいや地域のつながりがなくなった (回覧板もポストなどに入れるだけ) ◆冠婚葬祭の様式が変化し、近所での付き合いが減少した
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・近所を歩いて話をするきっかけをつくる ・近所で誘い合って参加を促す ・昔からあるお祭りなどの文化を継承していく(変化しつつも残していく) ・子ども達に地域の良さや力、助け合いの必要性を教える ・自治会で食事会などの提案をする ・声掛けの範囲を広げる
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・集まれる機会や場所をつくる(公園、花、ベンチなど) ・他の自治会も巻き込んで楽しさを共有する
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に人が増え、人と人との接点が増えている ・自治会活動が盛んになって、人や集まる機会が増えている ・ご近所でお互いに助け合い、見守りができており、集まる機会が増えている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）

- ◆自治会に入らない人が増えた ◆一人暮らし世帯や困っている人が増えた
- ◆若手や子どもが減少した ◆参加者の高齢化によりサロンの解散が増えた
- ◆学校行事に地域住民として入る機会が減少した

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・近所を歩いて話をするきっかけをつくる
- ・お互いを気に掛け合う関係づくりをする
- ・サロン活動や行事に誘われたら参加してみる
- ・男性が参加しやすい内容のサロン活動も提案する

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・お祭りなども学校を巻き込んで、子どもから大人まで楽しめる行事にする
- ・学校にも世代をつなぐ役割りを担ってもらえるよう働きかける
- ・サロンが存続できるように後継者の発掘や育成に取り組む

5年後に目指す地域の姿

- ・一人暮らし世帯などへの見守りがしっかりできている
- ・子どもが増え、四季折々の行事でにぎわっている
- ・仕事、子育て世代が地域活動に対して理解し、参加しやすい環境になっている
- ・学校ぐるみで参加でき、大人も子どもも楽しめるお祭りや行事が開催されている
- ・世代や性別を問わず参加できる様々なグループやサロンがたくさんできている
- ・近隣の自治会と一緒に交流できている
- ・やりたいことが見つかる多様なサークル活動がある
- ・事業所も地域の人にも気軽に声をかけられる関係になっている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）

- ◆荒廃した農作地が増え、猿などの動物も増えた ◆防災意識が希薄
- ◆空き家の増加により、空き巣の被害の増加が考えられる

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・防犯対策と見守り活動を兼ねて地域を散歩する

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・役割りを持たせ、ボランティア活動として行う（達成感が必要）

5年後に目指す地域の姿

- ・一人暮らし世帯への定期的な見守りが行えている

西庄 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	642	627	-15
人口(人)	1,492	1,372	-120
65歳以上の人口(人)	478	460	-18
高齢化率(%)	32.0	33.5	+1.5

<第4期キャッチフレーズ>

あいさつは愛! 参加と交流でつくる西庄の健康と笑顔(^^)

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)
<ul style="list-style-type: none"> ◆共働きの世帯が増え、ご近所で話をする機会が減った ◆井戸端会議などの近所づきあいや地域のつながりがなくなった ◆冠婚葬祭の様式が変化し、近所での付き合いが減少した
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・よく食べて良く眠り、自分が元気である ・自分から積極的に挨拶をする(笑顔で元気よく!) ・互いに挨拶を交わしながら、ご近所の見守りを行う
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しや会ったときなどにあいさつをして、お互いの近況や困りごとやお得情報などの話をする ・学校がある地域なので、学校も巻き込んで挨拶に取り組む ・地域ぐるみで挨拶に取り組むことで、子どもと高齢者の交流を増やしていく
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが健康で元気な地域 ・ご近所でお互いに助け合い、見守りができている ・子どもも大人も一緒になった近所づきあいが活発に行われている ・挨拶を通じた会話と笑顔の絶えない地域 ・挨拶でつながる、笑顔いっぱい、元気な地域

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）

- ◆アパートや自治会に入らない人が増えたため、つながりがない
- ◆サロンの参加者数が減り、解散するサロンが増えた ◆少子高齢化が進んだ
- ◆近隣の商店がなくなり買い物が不便になった
- ◆お祭りや清掃活動などの参加者が少なくなり、地域行事の規模が縮小してきた

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・近所を歩いて話をするきっかけをつくる
- ・ボランティア活動や地域活動に参加し、人とのつながりをつくる
- ・サロン活動や行事には誘い合って参加する
- ・高齢世帯への見守りや声掛けを続け、困りごとを聞けるように信頼関係をつくる

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・地域行事への参加率が上がるように、ルールや仕組みについて考える
- ・若い世帯が入ってきやすい地域環境について話し合う
- ・様々な人が関われる居場所づくりについて話し合う

5年後に目指す地域の姿

- ・小さなイベントや昔からの行事が継続され、人が集まりやすい地域
- ・ラジオ体操などの集まりや、神社や公民館の掃除を継続しながら交流できている
- ・子どもが増えて、お祭りの子ども屋台が毎年出せている
- ・買い物や病院受診に困らない地域
- ・みんなが地域のことに関心を持ち、行事への参加者が増えている
- ・世代に関係なく、地域みんなが協力しながら仲良くできている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）

- ◆耕作放棄地と空き家の増加 ◆自然災害の増加
- ◆ゴミの出し方が守れない人が増えてきた

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・普段から情報収集をしっかり行い、避難行動について考える

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・水害について地域で話し合う
- ・自主防災会の充実と情報共有について話し合う

5年後に目指す地域の姿

- ・堤防がしっかり整備されており、安心して暮らせる地域

西庄・絵堂 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	213	205	-8
人口(人)	344	310	-34
65歳以上の人口(人)	197	196	-1
高齢化率(%)	57.3	63.2	+5.9

<第4期キャッチフレーズ>

景色最高 元気も最高! 西庄・絵堂 みんなが主役の住みよいまちづくり

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)
<ul style="list-style-type: none"> ◆近所での会合がなくなった ◆冠婚葬祭の様式が変わり、近所付き合いが希薄になった ◆ご近所同士での手伝いあいがなくなり、つながりが希薄になった
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所同士で積極的に声を掛け合い仲良くする ・ご近所同士で協力してつながりをつくる ・自治会などの集まりには、家族で参加する ・健康やつながりのためにサロンやイベントには積極的に参加する
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・味噌づくりや漬け物づくりに若い人たちも巻き込み、輪を広げていく ・社協や地域包括支援センターに声をかけ、地域で楽しく1日を過ごせるイベントを考えて参加してもらう ・イベントの際にはしっかり広報活動し、たくさんの人に参加してもらう
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが健康を意識し、寄り合いが続いている ・若い世代が増えており、老若男女が協力しながら支えあえる地域 ・現在の人とのつながりが、そのまま続いている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）

- ◆一人暮らし世帯が増えた ◆子どもがいなくなった ◆空き家が増えた
- ◆茶摘みがなくなった ◆地域で知らない人が増えた
- ◆消防団の集まりやイベントで集まる人が減った

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・行事やイベントがあるときは誘い合って参加する
- ・自治会などの集まりには家族で参加する

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・楽しいことを共有し合えるイベントを考える
- ・地域で開催しているイベントの回数を増やす
- ・地域の資源を活用してイベントを考える
- ・そこに住んでいる地域の人には当たり前景色でも、初めて来た人には感動してもらえる素晴らしい景色があるので、「何もない」ではなくて、そういった体験をしてもらう

5年後に目指す地域の姿

- ・若い世代の人でも楽しめる行事やイベントが開催されている
- ・住みやすい地域になり、若い世代が増えている
- ・「水の丸高原ウォーク」の参加者が増え、継続できている
- ・「西庄良所会」の活動が継続できている
- ・地域全員参加のイベントが開催されている
- ・運転免許証を返納しても不便がない地域

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）

- ◆猿や鹿が増えて被害が多くなった ◆空き家が動物の住み家になっている
- ◆災害が多くなった ◆生活用水の確保が難しくなった

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・災害時の火のおこし方や自給自足について知っておく（高齢者の方の知恵）

加茂 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	2,253	2,243	-10
人口(人)	5,120	4,707	-413
65歳以上の人口(人)	1,680	1,752	+72
高齢化率(%)	32.8	37.2	+4.4

<第4期キャッチフレーズ>

「みんな友だち」は お節介から始まる 加茂を耕し 笑顔を育てる

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)
<ul style="list-style-type: none"> ◆近所で集まる機会が減少した ◆自治会活動への参加者が減少した ◆冠婚葬祭が簡素化され、地域のつながりがほとんどなくなった ◆全員参加の行事が少なくなり、顔を合わせる機会がなくなってきた
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神社や地域の行事には、家族やご近所に声をかけて参加する ・ 積極的にご近所さんと会話するよう家族で務める ・ 気を使いすぎないご近所との関係を意識する ・ ご近所の人と一緒に料理したり、ご飯を食べたりする日をつくる
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集まる機会や場所を増やせるように話し合う ・ 少しでも顔を合わせる機会を残せるように、みんなが参加できる地域の行事や神社の行事を継続できるように話し合う
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・ ご近所で顔が見える関係が広がっている ・ みんなが顔見知りになり、たくさんの人とつながりのある地域 ・ お祭りなど、昔からの賑やかな行事が行われている ・ 昔のように、“人情味”のある、人とのつながりがある地域

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）

- ◆空き家が増えた ◆運動会やお祭りなどの行事が衰退した
- ◆一人暮らしの高齢者世帯が増えた ◆自治会に入らない人が増えた
- ◆サロン活動が縮小した ◆自治会活動への参加人数が減少し規模が縮小した

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・地域で暮らしている義務感や使命感をしっかり持つ
- ・多様な地域資源を活用して人が集まれる機会を増やせるように呼びかける
- ・サロン活動に積極的に参加する
- ・声を掛け合ってボランティア活動に参加する

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・地域で行事を開催し、コミュニケーションの場づくりを拡張する
- ・自治会とサロン活動をタイアップし、楽しく効果のある活動を目指す
- ・近所での子どもの見守りなど、働く世代が仕事に専念できる環境を整える
- ・年代にかかわらず参加しやすいイベントなど、多世代が集まれる機会をつくる

5年後に目指す地域の姿

- ・子どもからお年寄りまで、様々な世代が交流する機会が増えている
- ・空き家に移住者が住み、賑やかになっている
- ・地域で協力し合い、伝統を受け継ぎ行事が開催できている
- ・サロン活動が活性化している
- ・みんなで子育てできる地域
- ・子育て世代同士が交流できる機会や、屋内の遊び場所ができている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）

- ◆防災意識向上の必要性 ◆耕作放棄地が増えた ◆鹿などの被害が増えてきた

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・自主防災会の活動を活発にし、講習会などを開催する
- ・地域で協力し、田畑を荒らさない方法を話し合う
- ・若い世代との関りを深め、農業の大切さや食の安全について考えてもらい、耕作放棄地を利用して家庭菜園等の体験から農業従事者を増やしていく

5年後に目指す地域の姿

- ・防災訓練などが行われ、地域の防災意識が高まっている
- ・耕作放棄地が少なくなって、田畑が有効活用されている

足代 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	821	832	+11
人口(人)	1,981	1,891	-90
65歳以上の人口(人)	650	666	+16
高齢化率(%)	32.8	35.2	+2.4

<第4期キャッチフレーズ>

助け合いが息づく やさしさあふれるまち 足代

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)
<ul style="list-style-type: none"> ◆冠婚葬祭の様式が変わり、ご近所とのつながりが希薄化した ◆ご近所同士での助け合いがなくなった ◆行事がなくなり、人付き合いが減った ◆自治会に入らない人とのつながりがない
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所同士での声掛けや挨拶をして、助け合える関係を築く ・小さな親睦が図れるような取り組みを考える ・行事やイベントには誘い合って参加する
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前のつながりに戻れるように、中止になっている自治会行事の再開や、参加者の増加について話し合う ・世代間のつながりがなくなったので、様々な世代が参加しやすい行事やイベントを考えて、顔の見える関係をつくる ・自治会に入ってもらえるような取り組みについて話し合う
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けが気軽にできる地域 ・つながりが持て、助け合える地域 ・たくさんの方が自治会活動に参加している ・子どもからお年寄りまで、多世代でつながりが持てている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）

- ◆婦人会をやめる人が増えた ◆行事やイベントの減少で集まる機会がなくなった
- ◆核家族化が進んだ ◆多世代での交流が減った ◆子どもが減った

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・クリーン作戦などの地域行事に積極的に参加し情報交換する
- ・地域でサロンを増やす
- ・一人一人が地域のことに関心を持ち、考えて取り組む

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・自治会や婦人会で集まる機会を増やして楽しみを共有する
- ・世代に関係なく楽しめる行事や、思い出に残るイベントを考える
- ・声を掛け合って自治会の行事に参加する

5年後に目指す地域の姿

- ・“ここに住みたい”と思ってくれる環境が整い、若い世代が増えている
- ・行事やイベントが継続できており、人と人のつながりが持てている
- ・若い世代がお祭りなどの地域行事に参加できている
- ・婦人会や老人クラブの活動が楽しく継続できている
- ・誰もがわかりやすいデジタル化が進み、生活がしやすい地域
- ・他の自治会とも交流が出来ている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）

- ◆近所の子どもたちを把握できていない ◆災害に関する話題が増えた

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・多世代が参加しやすい行事やイベントを考えて、顔が見える関係を築く
- ・防犯効果も期待できることから、挨拶運動を推進する
- ・自主防災会の活動推進や、災害時の連絡体制の構築、危険個所の共有を行う
- ・防災訓練を継続していく

5年後に目指す地域の姿

- ・安心して子育てができ、子どもたちが安心して暮らせる地域
- ・防災訓練が継続できている
- ・みんなの防災意識が高まり、災害に強く助け合える地域

昼間・増川 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	1,454	1,456	+2
人口(人)	3,379	3,179	-200
65歳以上の人口(人)	1,121	1,133	+12
高齢化率(%)	33.2	35.6	+2.4

<第4期キャッチフレーズ>

水があふれ 笑顔がめぐり 絆が育つまち 昼間・増川

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)

- ◆コロナ禍で催事や運動会などの行事が減り、顔が見えるつながりが減った
- ◆冠婚葬祭の形が変わり、つながりがなくなった
- ◆子どもの減少により、PTA活動など子どもを介してのつながりが希薄になった
- ◆孤立している人が増えた

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・挨拶だけでなく、一言でも会話を交わす習慣をつけ、日常会話をきっかけに困りごとに気付け、民生委員さんなどにつなげられるようにする
- ・自分の健康に気を配り、ご近所同士で助け合う
- ・地域の行事やイベントには積極的に参加する
- ・ご近所同士で楽しめるイベントを考える

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・地域の行事やイベントがあれば、周囲に声を掛けて外出のきっかけをつくる
- ・クリーン作戦など地域で集まる行事のあとに、茶話会や食事の時間を設ける
- ・サロン活動を活発にして人とのつながりをつくる

5年後に目指す地域の姿

- ・常日頃から人とのつながりが強く、助け合える地域
- ・人が増え、会話ができるご近所づきあいができている
- ・年齢に関係なく、気軽に話や相談ができる関係を持てる地域
- ・高齢で一人暮らしであっても、地域で支え合っている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）

- ◆一人暮らしの高齢者世帯が増えた ◆自治会活動への参加者が減った
- ◆コロナ禍から様々な行事が簡素化された ◆世代間の交流が減った
- ◆地域で集まれる場所が減った

☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]

- ・様々な世代の人たちが楽しめるイベントを考える
- ・花見などの小さな行事を復活できるように提案する
- ・自治会活動などには、声を掛け合って参加する

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・自治会や地域で集まることができる催しを考える
- ・高齢者が就労できる環境について話し合う
- ・介護予防を推進して健康寿命の延伸を目指し、高齢者の就労を促す

5年後に目指す地域の姿

- ・子どもからお年寄りまでが参加できる行事を楽しめる地域
- ・昔のような楽しい行事がたくさんあり、みんなが積極的に参加している
- ・趣味活動主体のゆるいつながりの組織がたくさんできている
- ・神社などで“地域の人たちの祭り”が開催されている
- ・お互いが認め合い、助け合える地域
- ・障害の有無に関わらず、だれもが楽しく笑顔で過ごせる地域
- ・移動手段が充実し、移動に不便がなくなり活動やお話が自由にできている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）

- ◆空き家が増えて動物の住み家になっている ◆耕作放棄地が増えた

☆ 地域で取り組むこと[共助]

- ・農林業体験などのイベントを推進し、将来の担い手を育成する
- ・移住者が来てくれるような環境づくりについて話し合う（公助の力も必要）

5年後に目指す地域の姿

- ・多くの子どもたちが農業体験などに参加して、世代間交流が活発に行われている
- ・移住者が増えて、空き家や耕作放棄地が減少し、若い世代の人たちが増えている

東山 地区地域福祉活動計画

項目	令和2年 (4月1日現在)	令和7年 (4月1日現在)	増減数
世帯数(世帯)	153	125	-28
人口(人)	267	198	-69
65歳以上の人口(人)	161	134	-27
高齢化率(%)	60.3	67.7	+7.4

<第4期キャッチフレーズ>

続ける力が地域を強くする ^{しま} 東山の里

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化(つながり)
<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍や人の減少により、人との交流が少なくなり関係が希薄になった ◆近所の人が増えなくなってもわからない ◆家族葬が多くなり、近所づきあいが減少した ◆人口の減少により、隣近所が遠くなった
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が健康でいられるように努力する ・サロンを開催して、健康維持と情報共有をする ・ご近所を気にかけて、見守りやつきあいを大切にする ・近所づきあいを維持、継続する
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの方を気にかけることができる地域にする ・多くの人が必要な時に、協力できる関係性を保つ ・地域が一体となり、普段は外に出ない人にも声掛けをして外出の機会をつくり、みんなが健康でいられるように心がける
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動が始まり、集まる場所ができている ・健康で豊かな生活を営むことができるよう、地域の人たちで元気づけ合いながら生活できている

5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（地域・交流）
<p>◆人気がない地区が増えた ◆高齢化によりお祭りの継続が困難になった</p> <p>◆人の減少で行事の規模が小さくなった</p>
☆ 自分自身や家族、ご近所で取り組むこと[自助・互助]
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけでなく、地域のためにできることを考え実行する ・自治会活動や行事には積極的に参加する ・クリーン作戦に参加する
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を徹底して、きれいな地域にしていく ・地域をPRできるように、SNSを活用して情報発信をする
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動が、現在より少し多くの人たちで継続できている ・地域の行事や自治会活動が継続できている ・地域団体の活動が継続できている ・人との交流場所が確保できている ・コロナ禍でできなくなったことを復活できている ・観光資源の活用ができ、観光地になっている
5年間の振り返りから見えてきた地域の変化（安全・安心）
<p>◆高齢化が進んだ ◆空き家が増えてきた</p> <p>◆落ち葉掃除など、道路の維持管理ができなくなってきた</p>
☆ 地域で取り組むこと[共助]
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方など、支援が必要であれば協力し支えてあげる ・SNSを活用して情報発信をし、移住者を募る ・道路の清掃活動で、一人一人の負担が減るように参加を促す
5年後に目指す地域の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が活用でき、移住者が増えている ・地域が理解を持って、認知症などの支援が必要な方を見守ってあげられている

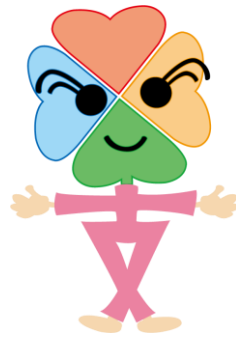
<参考資料>

第4期東みよし町地域福祉活動計画策定委員名簿

	地 区	所 属	氏 名
委員長	昼間	地域活動支援隊	島 昌 成
副委員長	加茂	東みよし町支え合い推進協議体	川野 悦博
委員	大藤・毛田・中庄	手話サークルみかも	金丸 真佐子
〃	大藤・毛田・中庄	東みよし町支え合い推進協議体	木藤 正明
〃	大藤・毛田・中庄	町民生委員児童委員協議会	黒島 功司
〃	西庄	三加茂福祉委員会	伊藤 アイ子
〃	西庄	西庄さんわ推進会	岩野 幸男
〃	西庄	町民生委員児童委員協議会	七條 公香
〃	西庄・絵堂	町民生委員児童委員協議会	伊藤 眞知子
〃	西庄・絵堂	三加茂福祉委員会	浦岡 弘美
〃	西庄・絵堂	三加茂福祉委員会	川原 洋子
〃	西庄・絵堂	西庄良所会	平野 重秋
〃	加茂	集落支援員	浦岡 二美
〃	加茂	町民生委員児童委員協議会	廣瀬 孝幸
〃	足代	東みよし町社会福祉協議会	秋田 淳子
〃	足代	ボランティアグループ愛	大西 綾子
〃	足代	町民生委員児童委員協議会	宮原 照代
〃	昼間	町民生委員児童委員協議会	鎌倉 義清
〃	昼間	居住支援協議会	久原 孝子
〃	東山	元社会福祉協議会職員	木下 和代
〃	東山	守る会東山	新田 春夫
〃	東山	町民生委員児童委員協議会	安原 邦治
〃	増川	町民生委員児童委員協議会	北藤 光春
〃	増川	町民生委員児童委員協議会	藤高 幸子

策定委員会開催状況

年月日	場 所	人数	内 容	説 明
R8.1.29	東みよし町 社会福祉協議会	21 名	第 1 回東みよし町 地域福祉活動計画 策定委員会	(1)委員長・副委員長の選出 (2)地域福祉活動計画につ いて (3)東みよし町地域福祉計 画の進捗状況 (4)住民アンケート結果 (5)第 4 期計画で重点的に 取り組む地域課題と目 標の設定 (6)その他
R8.2.13	東みよし町役場 三加茂庁舎	52 名	第 1 回地区計画 策定委員会 (三加茂地区)	(1)地域福祉活動計画とは (2)5 年間の振り返り
R8.2.17	東部福祉センター	33 名	第 1 回地区計画 策定委員会 (三好地区)	(1)地域福祉活動計画とは (2)5 年間の振り返り
R8.2.27	東みよし町 社会福祉協議会	47 名	第 2 回地区計画 策定委員会 (三加茂地区)	(1)5 年後に目指す地域の 姿と取り組み (2)キャッチフレーズ作成
R8.3.4	東部福祉センター	36 名	第 2 回地区計画 策定委員会 (三好地区)	(1)5 年後に目指す地域の 姿と取り組み (2)キャッチフレーズ作成
R8.3.31	東みよし町 社会福祉協議会	21 名	第 2 回東みよし町 地域福祉活動計画 策定委員会	(1)計画案の承認 (2)その他



地域福祉は、皆さま一人ひとりの思いと行動から育まれます。
小さな気づきや声かけが、まちの未来を大きく変えていきます。
どうか、この計画の推進にお力添えをいただければ幸いです。

東みよし町社会福祉協議会
オリジナルキャラクター



おーくん



さっちゃん



ささえさん

